

農 薬 抄 録

一般名：クレソキシムメチル

(殺菌剤)

作成年月日：平成 7 年10月 26日 作成
平成 25 年 5月 15日 改訂

作成会社名：BASF ジャパン株式会社

作成責任者名・所属：BASF ジャパン株式会社
化学品・農薬統括本部
農薬事業部 開発登録部 登録

連絡先：BASF ジャパン株式会社
化学品・農薬統括本部
農薬事業部 開発登録部 登録

電話番号：

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

目 次

	頁
I. 開発の経緯	1
II. 物理的・化学的性状	5
III. 生物活性	14
IV. 適用及び使用上の注意事項	16
V. 農薬残留性	
1. 作物残留	24
2. 土壌残留	50
VI. 有用動植物等に及ぼす影響	
1. 水産動植物に対する影響	54
2. 水産動植物以外の有用生物に対する影響	72
VII. 使用時安全上の注意、解毒法等	76
VIII. 毒性	
毒性試験一覧表	77
1. 原体の毒性	
1-1. 急性毒性	84
1-2. 皮膚および眼に対する刺激性	93
1-3. 皮膚感作性	98
1-4. 亜急性毒性	101
1-5. 慢性毒性および発がん性	124
1-6. 繁殖性に及ぼす影響および催奇形性	192
1-7. 変異原性	212
1-8. 生体の機能に及ぼす影響	239
1-9. その他の試験	249
2. 原体中の混在物および代謝物の毒性	
2-1. 原体中の混在物の毒性	280
2-2. 代謝物の毒性	284
3. 製剤の毒性	296

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

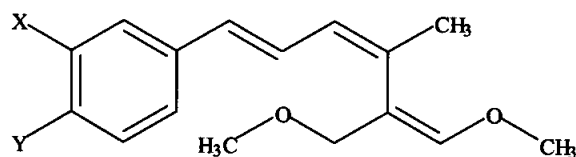
IX. 動植物及び土壌等における代謝分解

代謝分解試験一覧表	320
代謝物一覧表	324
1. 動物における代謝試験	331
2. 植物における代謝試験	361
3. 土壌における運命	407
4. 土壌吸着試験	416
5. 水中光分解試験	418
6. 加水分解試験	433
7. 生物濃縮性試験	435
代謝分解のまとめ	439
動植物及び土壌等における代謝分解経路	443
代謝分解の概要	444
〔附〕クレソキシムメチルの開発年表	453

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

I. 開発の経緯

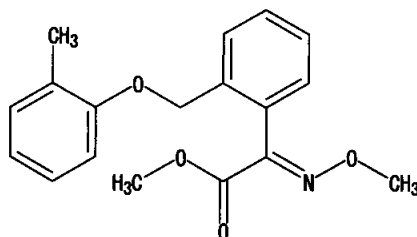
クレソキシムメチルは BASF 社(ドイツ)が開発した新規殺菌剤で、1970 年代後半に担子菌から発見された下記の構造を有する抗菌成分「ストロビルリン(strobilurins)」に由来する新規化合物に属するものである。



ストロビルリン A ストロビルリン B

X: H	OCH ₃
Y: H	Cl

しかしながら、この抗菌成分は安定性において問題があったことから、BASF 社は農業場面における殺菌剤として実用化するため多くの誘導体について研究を行なった結果、1987 年に関連化合物について特許を申請した。1989 年には関連化合物の中で下記の構造を有する化合物を農業用殺菌剤として開発することを決定し、基礎研究並びに安全性関連の試験等が開始された。



この化合物に対する一般名は当初「toloximate」として 1992 年に ISO に申請されたが、ある国の言語において好ましくない意味となることから 1994 年に「kresoxim-methyl(クレソキシムメチル)」に変更され現在に至っている。

日本においては 1992 年に適用性検討のための各種社内試験が実施され、日本の農業場面に適応した殺菌剤であることが認められた。この結果、1993 年より日本植物防疫協会及び全国の多くの農業試験研究機関で試験され、

- ・ 従来の殺菌剤と異なる作用機作を有し
- ・ 多くの病害に対して防除効果を示し
- ・ 従来の殺菌剤に対して抵抗性を示す病害に対しても有効で
- ・ 多くの作物に対して安全に使用できる

ことが報告され、これらに加え、

- ・ 予防効果
- ・ 漫漶性並びに治療効果
- ・ ベイパーアクション(ガス効果)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。
 等も認められ、わが国農業場面における殺菌剤として実用性があるものと判定された。

日本においては、平成 7 年 10 月に農業登録申請を行ない、同 9 年 12 月に「ストロビードライフ
 ロアブル」と「ストロビーフロアブル」の 2 剤が各々登録された。同年、残留農薬安全性評価委
 員会にてラットの慢毒/発がん性試験での無毒性量である 36mg/kg/日に基づき、一日許容摂取量
 (ADI)は 0.36mg/kg/日に設定された。海外での評価は、米国 EPA においてに同じくラットの慢毒
 /発がん性試験を基に ADI が 0.36mg/kg/日が設定され (1999 年の Federal Register, Vol. 64,
 No. 111)、WHO/FAO において同試験を基に ADI が 0-0.4mg/kg/日が設定されている (1988 年¹⁾)。

下表に平成 11 年 11 月 22 日に官報告示された残留基準値を示した。

作物名	残留基準値 (ppm)
小麦	0.1
大麦	5
ライ麦	5
ピーマン	2
きゅうり	0.5
かぼちゃ	0.5
ねぎ	2
わけぎ	2
にんにく	0.1
みかん	2
夏みかん	10
レモン	10
オレンジ	10
グレープフルーツ	10
ライム	10
上記以外のかんきつ類	10
もも	1
キウイー	1
メロン	1
すいか	1
りんご	5
日本なし	5
西洋なし	5
かき	5
うめ	5
ぶどう	15
いちご	5
てんさい	0.1

¹ ; Pesticide residues in food_1998, pp.147-160

Pesticide residues in food_1998, Part II-Toxicological evaluations, pp.179-202

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はBASF ジャパン株式会社にある。

諸外国での登録状況は下記のとおりである(2010年3月2日現在)。

登録国名	登録作物
アルゼンチン	ぶどう(生食)、りんご、大麦、小麦
オーストラリア	りんご
オーストリア	ぶどう(生食、ワイン)、野菜、きゅうり、かぼちゃ、ズッキーニ
ベルギー	野菜、りんご、なし、いちご、ぶどう、小麦、大麦、ライ麦
ブラジル	りんご、ばれいしょ、きゅうり、トマト、メロン、ぶどう、米、コーヒー、大麦、小麦、大豆、マカ、綿、バラ
カナダ	ぶどう(レーズン)、ぶどう(生食、ワイン)、りんご、ピーカンナッツ
チリ	りんご、なし、ぶどう、大麦、小麦、オート麦、きゅうり、いちご、メロン
クロアチア	穀類(干し草)、ぶどう(生食、ワイン)、大麦、小麦、りんご
チェコ共和国	ぶどう(生食、ワイン)、りんご
デンマーク	穀類、りんご、なし、いちご、黒スグリ、バラ、キク
フィンランド	穀類、りんご、なし、黒スグリ、いちご、セイヨウスグリ
フランス	穀類(わら)、ぶどう(生食、ワイン)、アプリコット、もも、メロン、りんご、なし、野菜、てんさい、マルメロ、オリーブ、黒スグリ、セイヨウスグリ、小麦、大麦、オート麦、ライ麦、キク
ドイツ	りんご、なし、黒スグリ、セイヨウスグリ、ぶどう(生食、ワイン)、ししとうがらし、トマト、なす、うり類、オリーブ、茶、ナッツ、オイル穀類、ホップ、野菜、いちご、アスパラガス、タバコ、大麦、小麦、ライ麦、オート麦、飼料用ビート、てんさい、かぶ、きゅうり、かぼちゃ、ズッキーニ、バラ
ハンガリー	穀類(わら)、ぶどう(生食、ワイン)、てんさい、大麦、小麦、小果実、うり類、りんご、きゅうり、なし、ホップ、メロン
ギリシャ	ぶどう、りんご、オリーブ、きゅうり、ズッキーニ、メロン、スイカ
アイルランド	りんご、いちご、大麦、小麦、オート麦、バラ
イスラエル	ぶどう(生食、ワイン)、いちご、りんご、マンゴー、スイカ、きゅうり、メロン、かぼちゃ、ネクタリン、もも
イタリア	ぶどう(生食、ワイン)、ししとうがらし、トマト、なす、うり類、オリーブ、りんご、なし、茶、ナッツ、オイル穀類、ホップ、穀類、熱帯産果実、核果類、小果実、キャベツ、豆類、根菜、葉、莖菜、鱗茎野菜、ばれいしょ、なす科類、スイカ、メロン、きゅうり
ルクセンブルク	りんご、なし、ぶどう、小麦、大麦、ライ麦
オランダ	りんご、なし、ねぎ、アスパラガス、たまねぎ、いちご、メロン、にんにく、きゅうり、かぼちゃ、ズッキーニ、大麦、小麦、ライ麦、ビート、てんさい、チューリップ、ゆり
ニュージーランド	りんご、大麦、小麦、かぼちゃ、うり
ノルウェー	りんご、なし、黒スグリ、サクランボ、プラム、いちご、エンドウ、きゃべつ、にんじん、にんにく、セロリー、トマト、きゅうり、穀類
ポルトガル	ナシ状果
南アフリカ共和国	かんきつ、ぶどう(生食、ワイン)、りんご、なし
スペイン	ししとうがらし、ぶどう(生食、ワイン)、トマト、なす、メロン、フルーツベジタブル、りんご、なし、きゅうり、オリーブ油、オリーブ(油用)、オリーブ(生食)、野菜、いちご、スイカ

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

登録国名	登録作物
スウェーデン	穀類、ナシ状果、りんご、なし
スイス	小果実、ぶどう(生食、ワイン)、うり類、トマト、いちご、穀類、ナシ状果、てんさい、りんご、なし、かぼちゃ
台湾	ゴレンシの実、かき、グァバ、りんご、いちご、ぶどう(生食、ワイン)、わけぎ、ねぎ、にんにく、すいか、ライチ、マンゴー、なつめ、りんご、なし、さくらんぼ、プラム、もも、メロン、マスクメロン、にんじん
韓国	りんご、なし、かんきつ、ぶどう、きゅうり、かき、スイカ、メロン、いちご、もも、とうがらし
中国	りんご、メロン、いちご、きゅうり
トルコ	ぶどう(ワイン)、野菜、りんご
イギリス	ナシ状果、大麦、小麦、りんご、ライ麦、オート麦
アメリカ	ぶどう(レーズン)、ぶどう(生食、ワイン)、りんご(絞りカス)、ピーカンナッツ、りんご、マルメロ、なし
コロンビア	米、バラ、キク、カーネーション
メキシコ	りんご、なし、ぶどう、バラ

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

II. 物理的・化学的性状

1. 有効成分の名称及び化学構造

1) 一般名 和名：クレソキシムメチル (ISO 名)

英名：kresoxim-methyl (ISO 名)

2) 別名 商品名：ストロビードライフフロアブル (英名 Strobey WG)

ストロビーフロアブル (英名 Strobey SC)

3) 化学名 和名：メチル(E)-2-メトキシイミノ[α-(o-トリルオキシ)-o-トリル]アセテート (JMAFF 名)

メチル (2E)- (メトキシイミノ) {2-[(2-メチルフェノキシ)メチル]フェニル}アセテート (IUPAC 名)

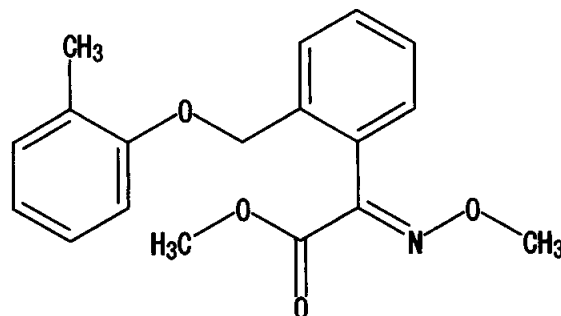
(E)-α-(メトキシイミノ)-2-[2-(エチルフェノキシ)メチル]ベンゼンアセテート (CA 名)

英名：methyl (E)-2-methoxyimino[α-(o-tolyloxy)-o-tolyl]acetate (JMAFF 名)

methyl (2E)-(methoxyimino) {2-[(2-methylphenoxy)methyl]phenyl}acetate
(IUPAC 名)

(E)-α-(methoxyimino)-2-[2-(ethylphenoxy)methyl]benzeneacetate (CA 名)

4) 構造式



5) 分子式

$C_{18}H_{19}NO_4$

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

6) 分子量 313.4

7) CAS No. 143390-89-0

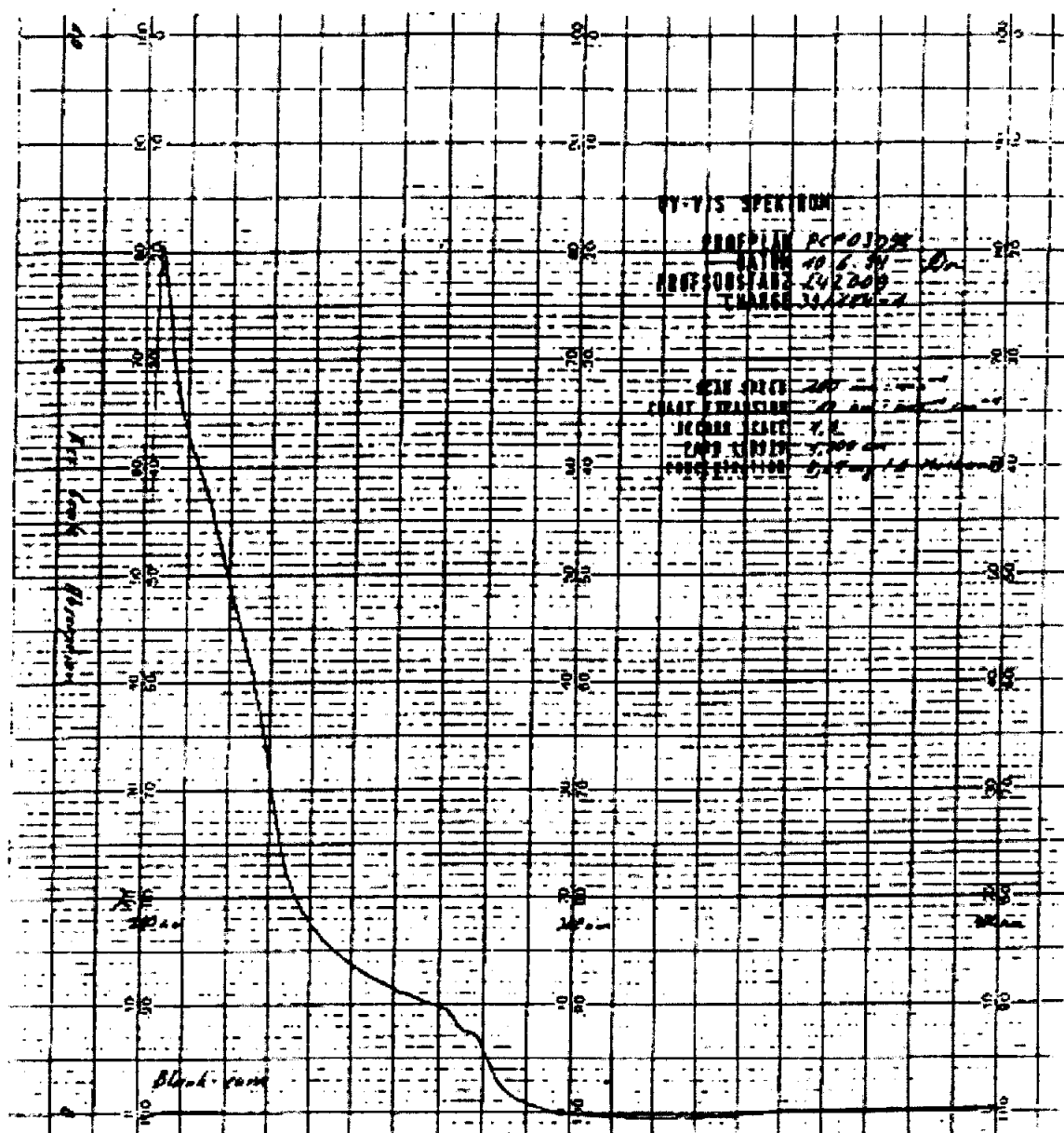
2. 有効成分の物理的・化学的性状

項目		測定値 (測定条件)		測定方法/試験機関		
色調		白色		官能法/ (1994年/GLP)		
形状		結晶状固体		官能法/ (1994年/GLP)		
臭気		かすかな芳香臭		官能法/ (1994年/GLP)		
密度		1.258 g/cm ³ (20°C)		空気比較比重計/ (1994年/GLP)		
融点		101.6~102.5°C		毛細管法/ (1994年/GLP)		
沸点		測定不能(約310°Cで分解)		示差走査熱量分析/ (2000年/GLP)		
蒸気圧		2.3×10 ⁻⁶ Pa (20°C)		拡散法(重量損失法)/ (1996年/GLP)		
解離定数(pKa)		解離せず*		分光光度法・滴定法/ (2000年/GLP)		
溶解度	水	2.0×10 ⁻³ g/L		(20°C)	カラム溶出法/ (1994年/GLP)	
	有機溶媒	アセトン	176 g/L		フラスコ法/ (1994年/GLP)	
		メタノール	14.6 g/L			
		2-プロパノール	4.74 g/L			
		1-オクタノール	4.01 g/L			
		酢酸エチル	111 g/L			
		アセトニトリル	146 g/L			
		ジクロロメタン	512 g/L			
		トルエン	101 g/L			
		n-ヘプタン	1.72 g/L			
オリーブ油	5.54 g/L					
オクタノール/水分分配係数 (log Pow)		3.43 (25°C)		フラスコ振とう法/ (1996年/GLP)		
生物濃縮性		BCF _{ss} =115*		(1994年/GLP)		
土壌吸着係数		K _f ^{ads} : 3.80~14.39 K _f ^{ads oc} : 243~762	(25°C)	OECD 106/ (1994年)		
加水分解性		t _{1/2} 875日 (pH5) t _{1/2} 34日 (pH7) t _{1/2} 7時間 (pH9)	(25°C)	EPA N161-1/ (1992年/GLP)		
水中光分解性	蒸留水 (滅菌)	照射区 遮光区	推定半減期 11.2日 >200日	光源 キセノンランプ: 約800W/m ² 300~800nm (25°C)	12農産第8147号/ (1994年)	
	自然水 (河川水)	照射区 遮光区	3.0日 16.8日	キセノンランプ: 約800W/m ² 300~800nm (25°C)		
安定性	対熱	約310°Cで分解		DSC法/ (2000年/GLP)		
スペクトル (次頁以降にスペクトラム及び掃査を示す)		UV (λ _{max} 204nm, ε 3.1×10 ⁴) IR MS ¹ H-NMR ¹³ C-NMR		OECD 101/ (1994年/GLP) KBr錠剤法/ (1994年/GLP) 直接EI法/ (1994年/GLP) CDCl ₃ 溶液, TMS内標/ (1994年/GLP) CDCl ₃ 溶液, TMS内標/ (2000年/GLP)		

*: 取込み21日後における親化合物の値

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

UV スペクトラム

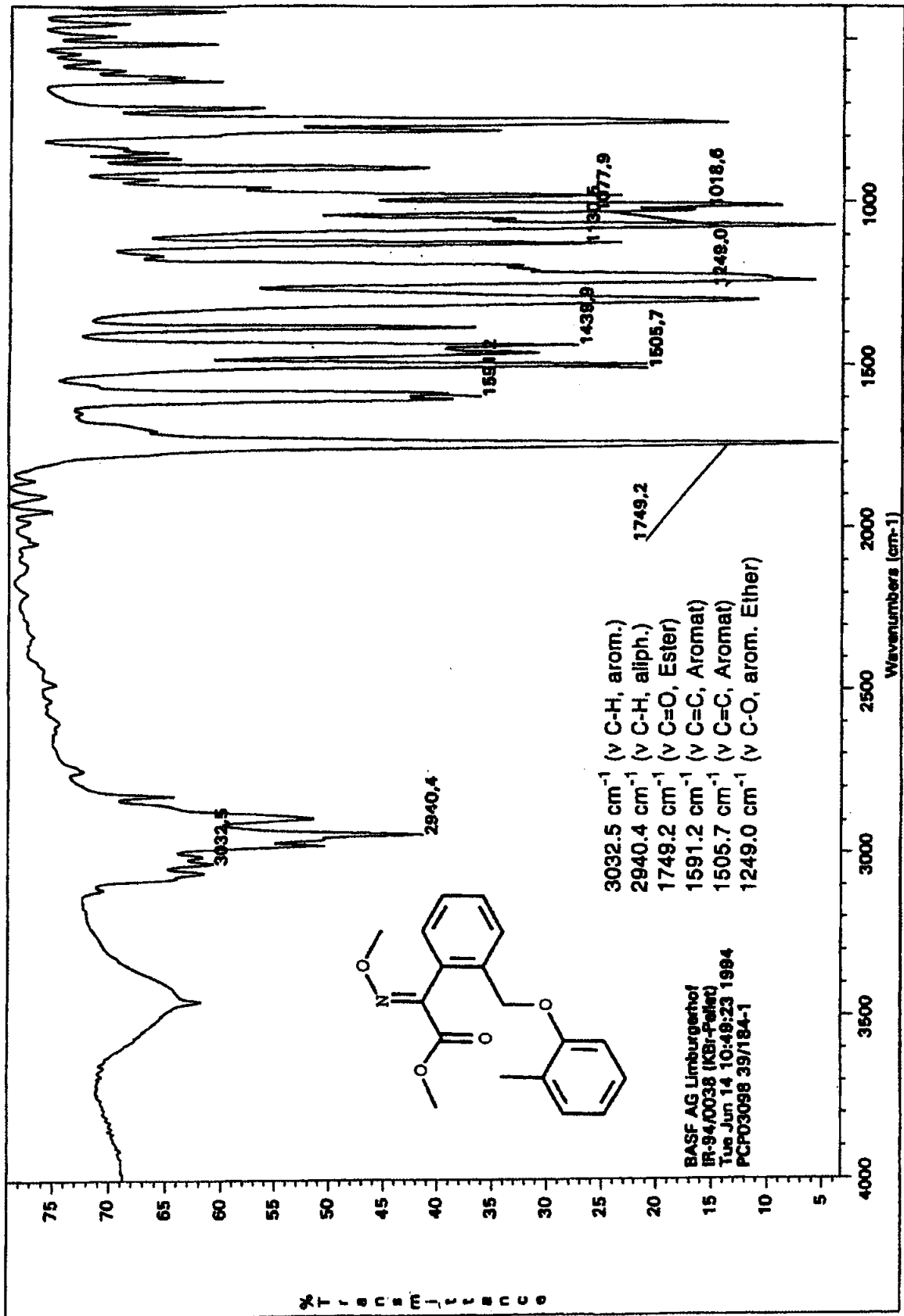


Molecular extinction at UV/VIS

UV/VIS spectrum cited above lists the required values.

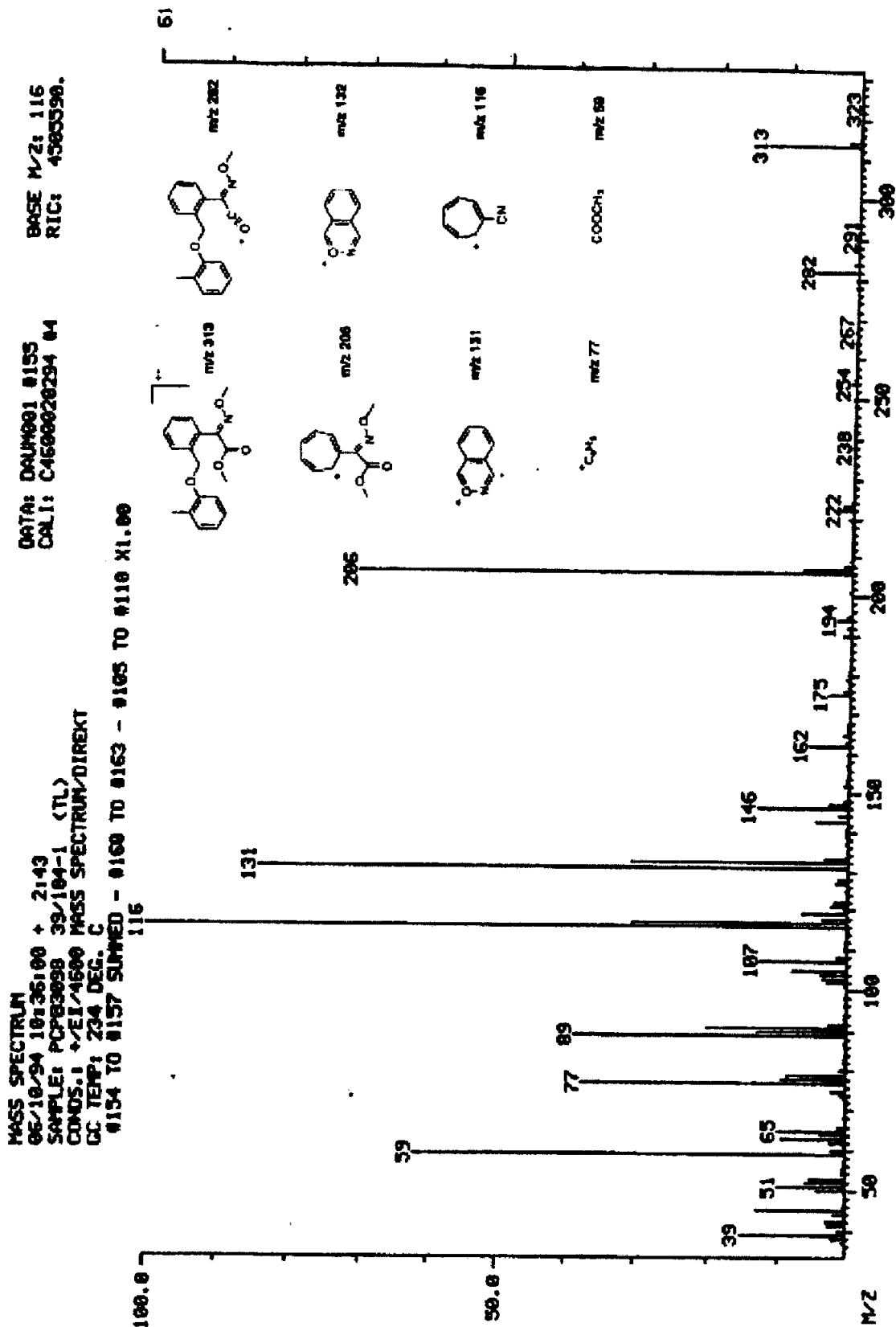
Absorption	λ [nm]	AU	ϵ [$l \times \text{Mol}^{-1} \times \text{cm}^{-1}$]
maximum	204	0.807	3.1×10^4
shoulder	271	0.095	3.6×10^3
shoulder	277	0.075	2.9×10^3
drift downwards	290	0.010	3.8×10^2
drift downwards	295	0.005	1.9×10^2

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。
IR スペクトラム



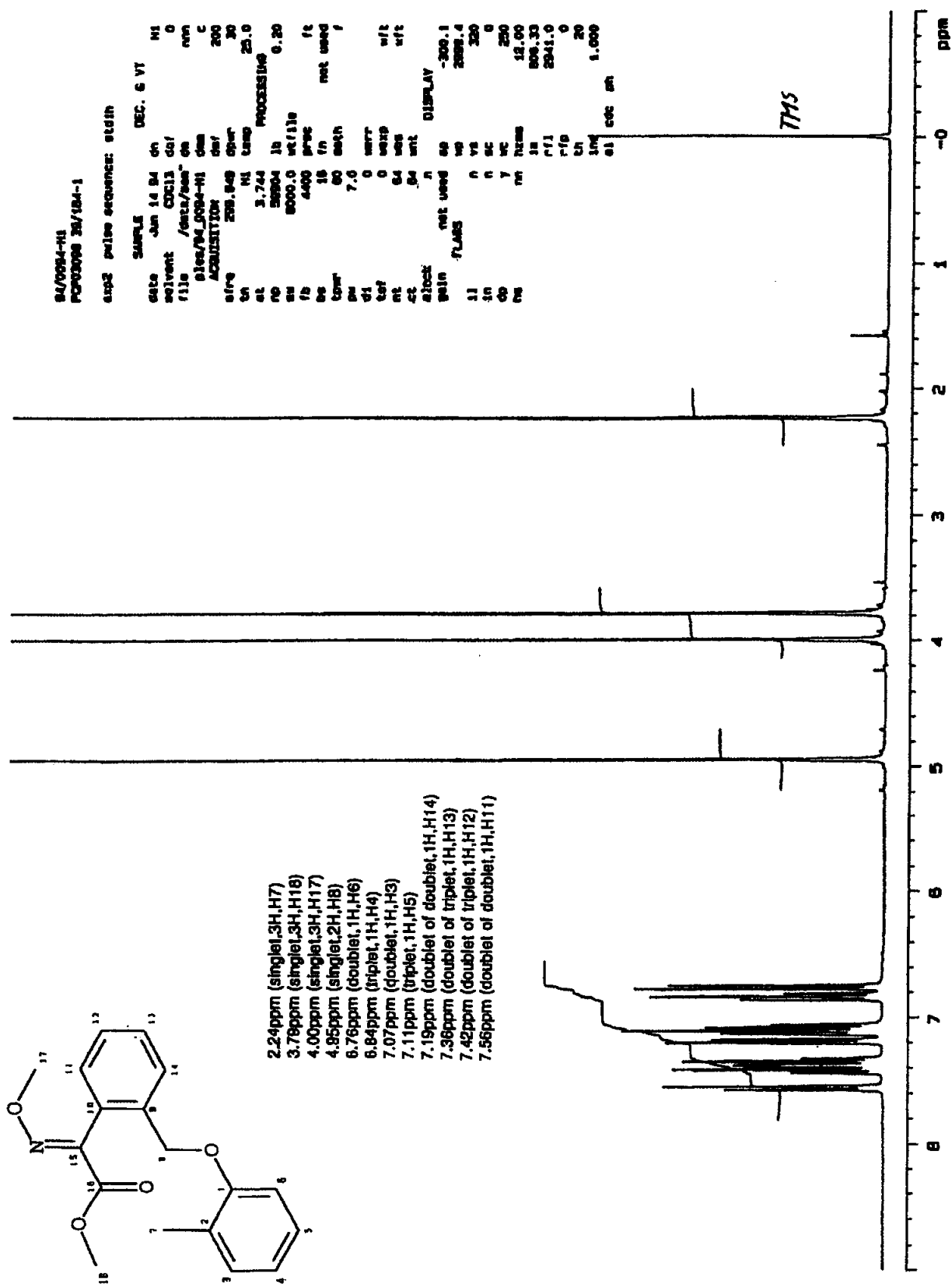
本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

MS スペクトラム



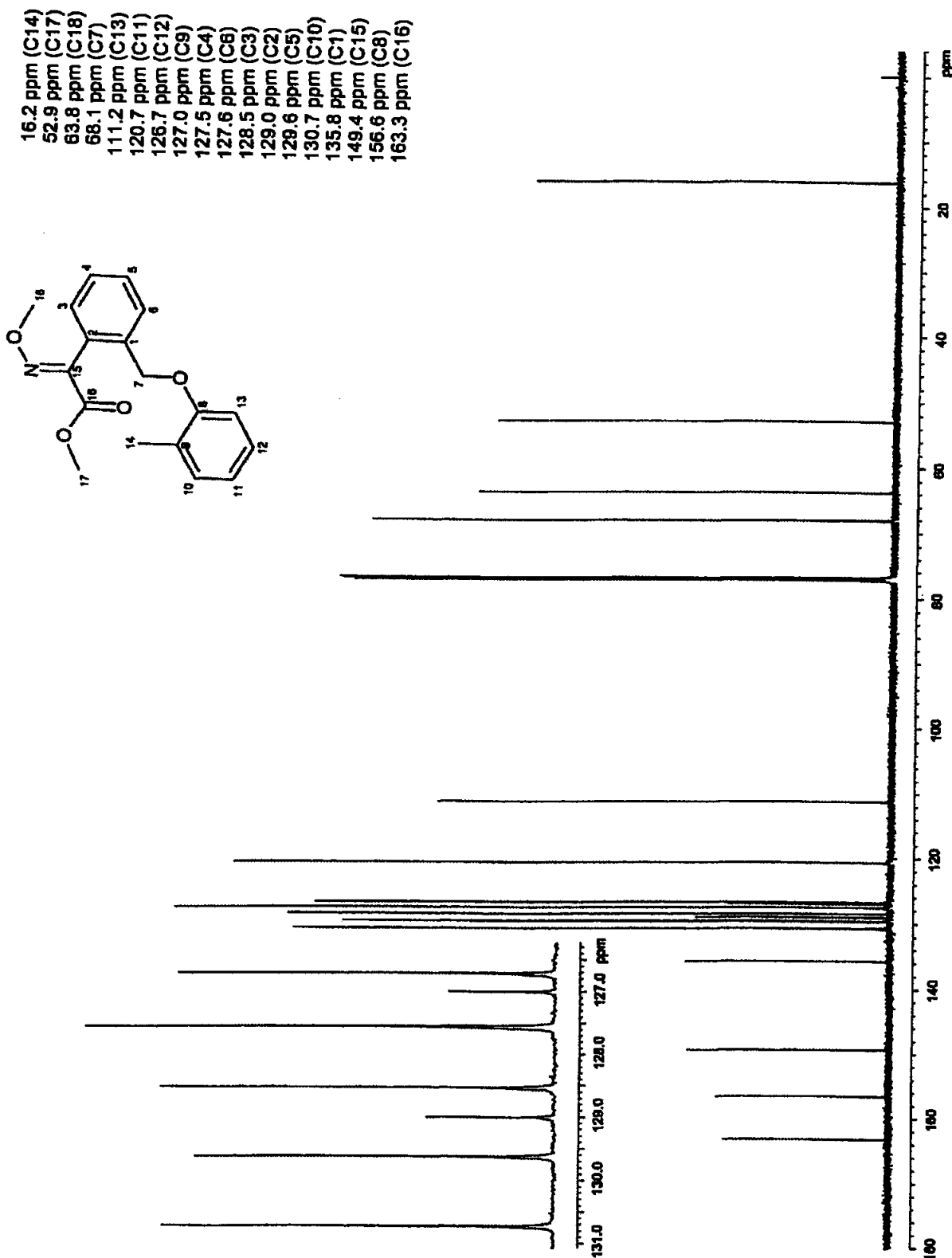
本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

¹H NMR スペクトラム



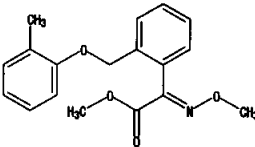
本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

¹³C NMR スペクトラム



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

3. 原体の成分組成

区分	名称		構造式	分子式 (分子量)	含有量(%)	
	一般名	化学名			規格値	通常値
有効成分	クレソキシムメチル Reg. No. 242 009	methyl (2 <i>E</i>)- (methoxyimino) [2-[(2- methylphenoxy)methyl]phen- yl]acetate (IUPAC名)		C ₁₈ H ₁₉ NO ₄ (313.4)		
原体中混在物						

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

区分	名称		構造式	分子式 (分子量)	含有量(%)	
	一般名	化学名			規格値	通常値
原体 中混 在物						

4. 製剤の組成

1) 50.0%水和剤(ドライフロアブル)

クレソキシムメチル 50.0%

界面活性剤等 50.0%

2) 44.2%水和剤(フロアブル)

クレソキシムメチル 44.2%

水、界面活性剤等 55.8%

3) 40.0%水和剤

クレソキシムメチル 40.0%

界面活性剤、鋳物質等 60.0%

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

Ⅲ. 生物活性

1. 活性の範囲

クレソキシムメチルの *in vitro*(寒天希釈法)における抗菌スペクトラムは下表のとおりで、多くの病原菌に対し活性を有し、特に Ascomycetes、Basidiomycetes、Oomycetes に対する活性が高いことを示している。

病原菌名	LC ₅₀ (mg/L)	病原菌名	LC ₅₀ (mg/L)
<i>Alternaria solani</i>	<1	<i>Mucor circinelloides</i>	>500
<i>Aspergillus niger</i>	>500	<i>Mycosphaerella fijiensis</i>	<1
<i>Botryotinia fuckeliana</i>	>500	<i>Nectria galligena</i>	>500
<i>Cercospora kikuchii</i>	<1	<i>Penicillium digitatum</i>	<1
<i>Chaetomium globosum</i>	<50	<i>Penicillium expansum</i>	<1
<i>Choanephora cucurbitarum</i>	<500	<i>Phaeosphaeria nodorum</i>	<1
<i>Cladosporium herbarum</i>	<10	<i>Phomopsis longicola</i>	>500
<i>Cochliobolus sativus</i>	<50	<i>Phytophthora cactorum</i>	>500
<i>Colletotrichum coffeanum</i>	<50	<i>Phytophthora infestans</i>	<1
<i>Coniophora puteana</i>	<1	<i>Pyrenophora avenae</i>	<10
<i>Corticium rolfsii</i>	<1	<i>Pyrenophora teres</i>	<10
<i>Corticium salmonicolor</i>	<50	<i>Pythium ultimum</i>	>500
<i>Cylindrocladium scoparium</i>	>500	<i>Rhizopus stolonifer</i>	<10
<i>Fusarium culmorum</i>	<50	<i>Sclerotinia fructigena</i>	>500
<i>Fusarium oxysporum</i>	<50	<i>Sclerotinia sclerotiorum</i>	<10
<i>Glomerella cingulata</i>	<10	<i>Sclerotium cepivorum</i>	<10
<i>Guignardia citricarpa</i>	<1	<i>Serpula himantoides</i>	<10
<i>Leptosphaeria maculans</i>	<10	<i>Tapesia yallundae</i>	>500
<i>Leptosphaeria salvinii</i>	<1	<i>Thanatephorus cucumeris</i>	<10
<i>Macrophomina phaseolina</i>	>500	<i>Trichoderma viride</i>	<10
<i>Magnaporthe grisea</i>	<100	<i>Venturia inaequalis</i>	<1
<i>Monographella nivalis</i>	<1	<i>Verticillium dahliae</i>	<10

また、多くの果実、穀類、野菜等の作物に対して試験され総体的に安全であることが認められている。しかしながら、数種の作物においては品種あるいは処理時期によって薬剤に感受性のあることがこれまで報告されたが、これらは各々の状況に応じた注意を守ることで回避できるものである。

2. 作用機作

「ストロビルリン」の作用機作は、ミトコンドリア内のチトクローム電子伝達系阻害による呼吸阻害で、結果として孢子発芽及び菌糸伸長を阻害することが知られている。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はBASF ジャパン株式会社にある。
クレソキシムメチルについての実験では、 $2.9 \pm 0.6 \times 10^{-8} \text{mol/L}$ でチトクローム c リダクターゼを無処理区に比して50%阻害することが確認されている。

このように本剤の作用機作は従来の殺菌剤とは異なるものと考えられている。また、現在進行中の数種の菌についてのベースライン検定及びモニタリングの結果は、本剤が耐性菌に対して高い防除効果を有するものであることを示している。

尚、本剤は植物体内等で代謝されて殺菌活性を示すものではなく、上記の作用機作は化合物自体によるものと考えられている。

3. 作用特性と防除上の利点

クレソキシムメチルの特徴は

- ・従来の殺菌剤と異なる作用機作と幅広い殺菌スペクトラムを有し、
- ・このため従来の殺菌剤に対して抵抗性を示す病害に対しても有効で、
- ・多くの作物に対して使用上の注意事項を遵守することで安全に使用できる

ことで、これらの点はこれまでの試験で確認されている。

これらの特徴に加え、

- ・予防効果、
- ・漫漶性並びに治療効果、
- ・ペーパーアクション(ガス効果)

等も報告されている。

このようにクレソキシムメチルは、新しい世代の殺菌剤として従来の殺菌剤とは異なる特性を有しており、特に従来の殺菌剤に対して抵抗性を示す病害に対しても有効であることは、我が国の農業における病害防除に貢献をするものと期待される。

また、クレソキシムメチルを含有する製剤「ストロビードライフロアブル」及び「ストロビーフロアブル」は、その製剤形態からいずれも水中分散性並びに懸垂性が良好であるだけでなく、これらの製剤は粉立ちあるいは飛散が殆どないことから散布薬液調製時に作業者が粉塵・飛沫等を吸入する危険性は小さいものとなっている。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

IV. 適用及び使用上の注意事項

1. 適用病害虫の範囲及び使用方法:

a) ストロビードライフロアブル(クレソキシムメチル 50.0%)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クレソキシムメチルを含む農薬の総使用回数
かんきつ	そうか病 黒点病 灰色かび病	2000~3000 倍	200~700 L/10a	収穫 14 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	褐色腐敗病 黄斑病	2000 倍					
	そばかす病	2000~3000 倍					
りんご	炭疽病	3000 倍		収穫前日 まで			
	黒点病 黒星病 うどんこ病 モニリア病						
	斑点落葉病 赤星病	1500~3000 倍					
	輪紋病 すす点病 すす斑病 褐斑病	2000~3000 倍					
なし	輪紋病 黒斑病 うどんこ病	3000 倍		収穫前日 まで			
	黒星病						
	炭疽病	2000~3000 倍					
もも ネクタリン	黒星病 うどんこ病 灰星病 縮葉病(休眠期) 黒斑病	2000 倍	収穫 7 日前 まで				
うめ	黒星病 すす斑病	2000~3000 倍					
	うどんこ病 灰色かび病 環紋葉枯病	2000 倍					
すもも	炭疽病 環紋葉枯病		2000 倍				
小粒核果類 (うめ、 すももを除く)	環紋葉枯病	2000~3000 倍					
ぶどう	黒とう病 べと病 枝膨病 晩腐病 灰色かび病 褐斑病		3000 倍	収穫 14 日前 まで			
	うどんこ病 さび病						

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	トリキシムフェルを含む農薬の総使用回数
かき かき(葉)	うどんこ病 落葉病 炭疽病 灰色かび病	3000 倍	200~700 L/10a	収穫 14 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
キウイ フルーツ	灰色かび病	2000~3000 倍		収穫前日 まで			
	貯蔵病害 (灰色かび病) すす斑病	2000 倍					
	あけび (果実)	うどんこ病		3000 倍	収穫 7 日前 まで		
ブルーベリー	斑点病 灰色かび病	3000 倍		収穫 14 日前 まで	2 回以内		2 回以内
さんしょう (果実)	さび病	2000 倍		収穫前日 まで	3 回以内		3 回以内
マンゴー	炭疽病			収穫 21 日前 まで			
バナナ	黒星病	3000 倍		発病初期			
やなぎ	葉さび病						
せいよう きんしばい	さび病						
ぼけ	赤星病 褐斑病						
じんちょうげ	黒点病						
ポプラ	マルガニテ落葉病						

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

b) ストロビーフロアブル(クレソキシムメチル 44.2%)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クレソキシムメチル を含む 農薬の総 使用回数
麦類 (小麦を除く)	うどんこ病 赤かび病 赤さび病	2000~3000 倍	60~150 L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
小麦	赤かび病	500 倍	25L/10a				
やまのいも	葉 渋 病	2000~3000 倍	100~300 L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
やまのいも (むかご)		2000 倍		収穫 7 日前まで			
きゅうり	うどんこ病 べと病 褐斑病 炭疽病	3000 倍		収穫前日まで			
きゅうり (花)	うどんこ病 べと病 褐斑病	2000~3000 倍		収穫 3 日前まで	2 回以内		2 回以内
すいか	炭疽病 つる枯病 うどんこ病			収穫前日まで	3 回以内		3 回以内
メロン	べと病 うどんこ病 つる枯病	収穫前日まで					
かぼちゃ	べと病 うどんこ病	3000 倍		収穫 7 日前まで	3 回以内		3 回以内
にがうり				収穫 7 日前まで			
うり類 (漬物用)	うどんこ病 つる枯病 べと病 炭疽病	3000 倍		収穫 3 日前まで	3 回以内		3 回以内
ズッキーニ	うどんこ病			収穫前日まで			
なす	うどんこ病 すすかび病						
ピーマン	うどんこ病 黒枯病						
とうがらし類 (ししとうを除く)	うどんこ病	4000 倍	収穫前日まで	2 回以内	2 回以内		
ししとう	うどんこ病 黒枯病						
はくさい	黒斑病 白斑病 べと病	3000 倍	収穫 3 日前まで	3 回以内	3 回以内		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ケリシムメキルを含む農薬の総使用回数
たかな	白斑病	3000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
たいさい	白さび病	3000~4000倍		収穫前日まで			
なばな	黒斑病	3000倍		収穫14日前まで	3回以内		3回以内
すいぜんじな	白さび病			収穫前日まで			
タアサイ	べと病			収穫14日前まで			
のざわな	褐斑病			収穫3日前まで			
サラダ菜	黒斑病			2回以内	2回以内		
おおさきな	うどんこ病			3000~5000倍			
いちご	さび病	3000倍		収穫前日まで	3回以内		3回以内
にら にら(花茎)	白斑葉枯病	2000倍		収穫7日前まで			
ねぎ	黒斑病 さび病 黄斑病	3000倍		収穫21日前まで	2回以内		2回以内
わけぎ	灰色かび病	2000~3000倍		収穫14日前まで	3回以内		3回以内
たまねぎ	灰色腐敗病	2000倍		収穫7日前まで			
にんにく 葉にんにく	さび病	2000倍		収穫14日前まで			
らっきょう	乾腐病	200倍		—	植付前		1回
にんじん	黒葉枯病	2000~3000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
	斑点病	3000倍		収穫21日前まで	3回以内		3回以内
てんさい	葉腐病	2000倍		収穫75日前まで	2回以内		2回以内
	褐斑病	2000~3000倍		収穫前日まで	3回以内		3回以内
たらのき	そうか病	2000倍		収穫7日前まで			
アスパラガス	斑点病			3000倍	収穫14日前まで		1回
食用ゆり	葉枯病	3000倍		収穫7日前まで	3回以内		3回以内
パセリ	うどんこ病			収穫14日前まで			
しゅんぎく	炭疽病	4000倍		収穫7日前まで	2回以内		2回以内
しそ科葉菜類 (しそを除く)	灰色かび病			2回以内			
しそ	斑点病	3000倍		収穫前日まで	3回以内		3回以内
	灰色かび病	2回以内					
セルリー	斑点病	3000倍		収穫3日前まで	2回以内		2回以内
ディル(葉)	うどんこ病			2回以内			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	グリホサート を含む 農薬の総 使用回数
茶	もち病 網もち病	2000倍	200~400 L/10a	摘採10日前まで	3回以内	散布	3回以内
	炭疽病 輪斑病 新梢枯死症	2000~3000倍					
食用金魚草	さび病	3000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	2回以内		2回以内
食用トビ	うどんこ病	4000倍		収穫3日前まで			
食用パンジー				3000倍			
食用西洋たんぽぽ		収穫45日前まで					
食用かえで(葉)		黒斑病		2000~3000倍	収穫3日前まで		
食用ぎく	褐斑病	3回以内			収穫7日前まで		
きく(葉)	さび病			2000~3000倍	発病初期	3回以内	3回以内
きく	黒斑病						
アスター	褐斑病	2000倍	100~400 L/10a	3回以内	3回以内		
りんどう	黒斑病 褐斑病	2000倍	100~400 L/10a	3回以内	3回以内		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

c) ターフトップDF (クレソキシムメチル 40.0%)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クレソキシムメチルを含む農薬の総使用回数
芝 (日本芝)	疑似葉腐病(春はげ症)	1000倍	休眠期前	3回以内	1㎡当り 500mL 散布	3回以内
	葉腐病(ラジパッチ) ヘルミントスリウム葉枯病 カーブリア葉枯病 フェアリーリング病					
	さび病		1㎡当り 200~250mL 散布			
	疑似葉腐病(象の足跡)		1㎡当り 500mL 散布			
芝 (ペントグラス)	ヘルミントスリウム葉枯病 カーブリア葉枯病 フェアリーリング病		発病初期		1㎡当り 500mL 散布	
	炭疽病		1㎡当り 200~500mL 散布			
	立枯病(テイクオールパッチ) ヒンカム病		1㎡当り 500mL 散布			
	葉腐病(ブラウンパッチ)		1㎡当り 0.2~1L 散布			
	疑似葉腐病(イエローパッチ)	1㎡当り 500mL 散布				
	雪腐小粒菌核病	秋~春期				
		根雪前				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

2. 使用上の注意事項

a) ストロビードライフロアブル(クレソキシムメチル 50.0%)

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 散布液調製の際は、水をかきまぜながら本剤の所定量を徐々に加えること。
- (3) ボルドー液との混用は避けること。
- (4) なしに使用する場合、開花始めから落花 30 日頃までの散布においては、葉に薬害を生じる恐れがあるので使用を避けること。
- (5) 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤の過度の運用は避け、なるべく作用性の異なる薬剤との輪番で使用する。
- (6) 開花期以降のおうとうには、薬害が生じる恐れがあるので、周辺にある場合にはかからないように注意すること。
- (7) ぶどうに使用する場合は次の事項に注意すること。
 - ① ロザリオピアンコには葉に薬害を生じるので散布を避けること。
 - ② 巨峰及びデラウェアを除く品種には、新梢伸長期から開花直前までの散布は葉に薬害を生じる場合があるので注意すること。
 - ③ 落花 20 日以降袋かけ前までの散布は果粉溶脱やよごれを生じる場合があるので注意すること。
- (8) かきに使用する場合、西条の新梢伸長期の散布では、葉に薬害を生じる場合があるので注意すること。
- (9) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (10) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

b) ストロビーフロアブル(クレソキシムメチル 44.2%)

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 使用に当たっては容器を良く振ること。
- (3) 散布液調製の際は、水をかきまぜながら本剤の所定量を徐々に加えること。
- (4) 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤の過度の運用は避け、なるべく作用性の異なる薬剤との輪番で使用する。
- (5) 小麦に対して希釈倍数500倍で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の地上液剤散布装置を使用すること。
- (6) いちごの施設栽培で施設内が高温多湿な場合は、薬害を防ぐため散布後十分な換気を行うこと。また、特に散布後高温が予想される場合は使用しないこと。
- (7) 浸透性を高める効果のある展着剤を混用すると薬害を生じる場合があるので、展着剤混用に当たっては事前にその適否を確認すること。
- (8) メロンに使用する場合は、交配～幼果期までの散布では薬害を生じることがあるので、この時期の散布は避けること。
- (9) きくに使用する場合には、高温多湿条件下では薬害を生じる場合があるので使用しないこと。
- (10) きくに使用する場合には、他剤との混用で薬害が生じる場合があるので注意すること。
- (11) はくさいに使用する場合には、結球後期(あたまとじ)までの散布で薬害が生じる場合があるので、使用を避けること。
- (12) はくさいに使用する場合には、高温多湿条件下では薬害を生じる場合があるので、使用を避けること。
- (13) 食用金魚草に使用する場合は、開花後の花に薬害を生じるおそれがあるので、開花前までに散布すること。
また、花に薬害が生じるため、観賞用である(非食用)金魚草には使用しないこと。
- (14) のざわなに使用する場合には、幼苗期の散布は多湿条件下では薬害が生じるおそれがあるので注意すること。
- (15) しゅんぎくに使用する場合には、幼苗期の散布は多湿条件下では薬害が生じるおそれがあるので注意すること。
- (16) アスパラガスに使用する場合には、高温多湿条件下では薬害を生じる場合があるので使用を避けること。展着剤の加用は避けること。
- (17) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (18) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。
なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

c) ターフトップDF (クレソキシムメチル 40.0%)

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 散布液調製の際は、水をかきまぜながら本剤の所定量を徐々に加えること。
- (3) 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤の過度の連用は避け、なるべく作用性の異なる薬剤との輪番で使用する事。
- (4) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

3. 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

a) ストロビードライフフロアブル(クレソキシムメチル 50.0%)

- (1) 水産動植物(藻類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

b) ストロビーフロアブル(クレソキシムメチル 44.2%)

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

c) ターフトップDF (クレソキシムメチル 40.0%)

- (1) 水産動植物(魚類、甲殻類、藻類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

V. 農薬残留性

1. 作物残留

(1) 分析法の原理と操作概要

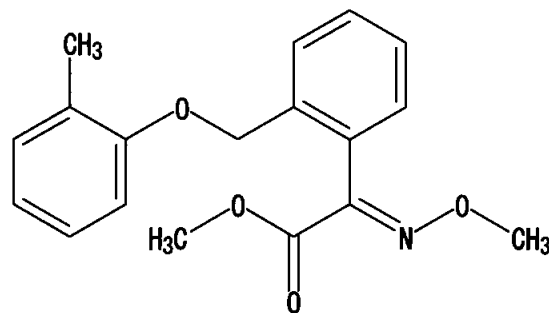
公的分析：磨砕した試料をアセトンで抽出後濃縮し、濃縮液をけいそう土充填カラムに移しヘキサンで溶出させる。溶出液を濃縮・乾固後ヘキサン/エチルエーテル混液 (98/2) で溶解し、予めヘキサンで洗浄したシリカゲル充填カラムに移し、同混液を流下させ、この流出液は捨てる。次いでヘキサン/エチルエーテル混液 (95/5) で溶出させ、溶出液を濃縮・乾固後ヘキサンで溶解し、ガスクロマトグラフィー (NPD) で定量する。

社内分析：磨砕した試料に /蒸留水混液 (8/2) を加えて振盪抽出後、セライトで濾過する。濾液中の を留去後、蒸留水を加えて分液ロートに移し、塩化ナトリウムと を加えて振盪し液液分配する。 層を分取し、無水硫酸ナトリウムで脱水後濾過し、濾液を濃縮・乾固する。この乾固物を で溶解し、予め で洗浄した Sep Pak Silica に移し、 及び 混液 (2/98) を流下させ、この流出液は捨てる。次いで 混液 (5/95) で溶出させ、溶出液を濃縮・乾固後 で溶解し、ガスクロマトグラフィー (FTD) により定量する。

なお、参考として代謝物 を対象に一部の作物について以下のように分析した。

ガスクロマトグラフィー (FTD) により定量する。

(2) 分析対象の化合物：メチル-(E)-2-メキシミノ-2-[2-(o-トリルオキシメチル)フェニル]アセート



注：本方法は親化合物の も含めて分析する。

参考として、以下の代謝物を分析した。

(3) 残留試験結果

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はBASF ジャパン株式会社にある。

a) ストロビー ドライフロアブル (50.0%)

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量/使用方法	試験調製場所	使用 回数	経過 日数	クレソキシムメチル分析結果 (ppm)			代謝物の分析結果 (ppm)				
					公的分析			社内分析				
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
温州みかん (施設) (果肉) 平6年度	水和剤 (50.0%) 2000倍 400L/10a 散布	愛知県農業総合試験場 園芸研究所 蒲郡支所 品種: 宮川早生	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
			3	14	0.572	0.557	0.618	0.608				
			3	28	0.196	0.196	0.456	0.456				
		徳島県植物防疫協会 (石井町) 品種: 南柑 20号	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
			3	14	0.576	0.574	0.322	0.321				
			3	28	0.500	0.494	0.613	0.606				
		愛知県農業総合試験場 園芸研究所 蒲郡支所 品種: 宮川早生	3	42	0.589	0.584	0.491	0.481				
			0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			3	14	9.93	9.90	8.46	8.16				
		徳島県植物防疫協会 (石井町) 品種: 南柑 20号	3	28	3.42	3.38	4.08	3.93				
			3	42	4.31	4.16	4.68	4.53				
			0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.02			
夏みかん (露地・無袋) (果実全体) 平5年度	水和剤 (50.0%) 2000倍 500L/10a 散布	千葉県農地園芸試験場 品種: 川野夏たいたい	0	-	<0.005	<0.005	0.010	0.010				
			3	15	0.605	0.588	0.929	0.922				
			3	28	0.553	0.550	0.790	0.767				
		大分県植物防疫協会 (大分市) 品種: 甘夏	3	45	0.604	0.598	0.905	0.870				
			0	-	0.013	0.013	0.009	0.009				
			3	14	1.53	1.48	1.84	1.82				
			3	28	0.855	0.832	1.20	1.18				
			3	45	0.528	0.528	1.12	1.00				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はBASF ジャパン株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量/使用方法	試験圃製場所	使用 回数	経過 日数	クレシキムメチル分析結果(ppm)				代謝物の分析結果(ppm)			
					公的分析		社内分析		公的分析		社内分析	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
かぼす (露地・無袋) (果実) 平6年度	水和剤 (50.0%) 2000倍 400L/10a 散布	広島県農業技術センター 果樹研究所	0	-	-	0.168	0.158	-	-	-	-	
			3	14	-	4.61	4.55	-	-	-	-	
			3	31	-	4.15	4.15	-	-	-	-	
	水和剤 (50.0%) 2000倍 300L/10a 散布	大分県柑橘試験場	0	-	-	<0.005	<0.005	-	-	-	-	
			3	14	-	1.26	1.24	-	-	-	-	
			3	30	-	1.48	1.48	-	-	-	-	
りんご (露地・無袋) (果実) 平6年度	水和剤 (50.0%) 1500倍 600L/10a 散布	青森県りんご試験場 品種：ふじ	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-	
			3	30	1.30	1.28	2.01	1.97	-	-	-	
			3	45	0.997	0.973	1.30	1.27	-	-	-	
			3	60	0.515	0.502	0.449	0.442	-	-	-	
			0	-	0.005	0.005	0.014	0.013	-	-	-	
			3	28	0.935	0.925	0.936	0.906	-	-	-	
	水和剤 (50.0%) 1500倍 400L/10a 散布	長野県植物防疫協会 須坂研究所 品種：つがる	3	42	0.596	0.593	0.570	0.570	-	-	-	
			3	56	0.188	0.186	0.214	0.212	-	-	-	
			0	-	0.006	0.006	<0.005	<0.005	-	-	-	
			3	1	1.42	1.42	1.50	1.38	-	-	-	
			3	7	0.86	0.86	1.05	1.04	-	-	-	
			3	14	0.81	0.78	1.21	1.14	-	-	-	
りんご (露地・無袋) (果実) 平8年度	水和剤 (50.0%) 1500倍 600L/10a 散布	青森県植物防疫協会 (黒石市) 品種：つがる	0	-	0.006	0.006	<0.005	<0.005	-	-	-	
			3	1	1.15	1.11	1.48	1.42	-	-	-	
			3	7	1.46	1.43	1.04	1.01	-	-	-	
			3	14	1.37	1.36	1.73	1.68	-	-	-	
			0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-	
			3	14	0.215	0.213	0.167	0.167	-	-	-	
	水和剤 (50.0%) 1500倍 800L/10a 散布	長野県植物防疫協会 須坂研究所 品種：つがる	3	30	0.213	0.205	0.073	0.066	-	-	-	
			3	45	0.126	0.124	0.055	0.055	-	-	-	
			0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-	
			3	14	0.984	0.942	0.706	0.686	-	-	-	
			3	29	0.187	0.184	0.235	0.224	-	-	-	
			3	44	0.294	0.294	0.311	0.304	-	-	-	
なし (露地・無袋) (果実) 平6年度	水和剤 (50.0%) 2000倍 400L/10a 散布	新潟県園芸試験場 品種：豊水	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-	
			3	14	0.215	0.213	0.167	0.167	-	-	-	
			3	30	0.213	0.205	0.073	0.066	-	-	-	
			3	45	0.126	0.124	0.055	0.055	-	-	-	
			0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-	
			3	14	0.984	0.942	0.706	0.686	-	-	-	
なし (露地・無袋) (果実) 平6年度	水和剤 (50.0%) 2000倍 400L/10a 散布	三重県農業技術センター 品種：長十郎	3	29	0.187	0.184	0.235	0.224	-	-	-	
			3	44	0.294	0.294	0.311	0.304	-	-	-	
			3	44	0.294	0.294	0.311	0.304	-	-	-	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はBASF ジャパン株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量/使用方法	試験圃農場所	使用 回数	経過 日数	クレンキシムメチル分析結果 (ppm)			代謝物の分析結果 (ppm)		
					公的 analysis			社内 analysis		
					最高値	平均値	最高値	最高値	平均値	最高値
なし (露地・無袋) (果実) 平9年度	水和剤 (50.0%) 2000倍 400L/10a 散布	福井県農業試験場 品種: 幸水	0	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-	
			3	1.29	1.29	1.56	1.50	-		
			3	1.11	1.10	1.47	1.46	-		
		愛知県農業総合試験場 園芸研究所 品種: 幸水	3	1.05	1.04	1.42	1.38	-		
			0	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-		
			3	1.22	1.20	2.31	2.26	-		
			3	1.16	1.10	2.13	2.11	-		
3	0.894	0.888	1.98	1.94	-					
もも (露地・無袋) (果肉) 平6年度	水和剤 (50.0%) 2000倍 400L/10a 散布	福島県植物防疫協会 品種: 白鳳	0	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-		
			3	0.107	0.103	0.119	0.118	-		
			3	0.017	0.016	0.120	0.120	-		
		徳島県農業試験場 品種: 紅清水白桃	3	<0.005	<0.005	0.024	0.024	-		
			0	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-		
			3	<0.005	<0.005	0.032	0.032	-		
			3	<0.005	<0.005	0.013	0.013	-		
3	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-					
もも (露地・無袋) (果皮) 平6年度	水和剤 (50.0%) 2000倍 400L/10a 散布	福島県植物防疫協会 (飯坂町) 品種: 白鳳	0	0.03	0.02	0.013	0.011	-		
			3	24.7	24.5	8.86	8.81	-		
			3	17.6	17.0	8.45	8.42	-		
		徳島県農業試験場 品種: 紅清水白桃	3	4.74	4.64	1.20	1.19	-		
			0	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005	-		
			3	4.80	4.75	5.55	5.46	-		
			3	2.40	2.30	2.20	2.16	-		
3	0.51	0.50	0.477	0.463	-					
うめ (露地) (果実) 平6年度	水和剤 (50.0%) 2000倍 260L/10a 散布	群馬県植物防疫協会 (江木町) 品種: 白加賀	0	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-		
			3	1.06	1.02	1.67	1.64	-		
			3	0.739	0.721	1.28	1.27	-		
		和歌山県果樹園芸試験場 品種: 古城	3	0.308	0.296	0.640	0.618	-		
			0	0.006	0.006	<0.005	<0.005	-		
			3	2.42	2.36	2.64	2.60	-		
			3	0.529	0.527	1.37	1.30	-		
3	0.659	0.655	0.857	0.846	-					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はBASF ジャパン株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量/使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	クレシキムメテル分析結果(ppm)				代謝物の分析結果(ppm)					
					公的分析		社内分析		公的分析		社内分析			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値		
ぶどう (施設・無袋) (果実) 平6年度	水和剤 (50.0%) 2000倍 400L/10a 散布	福井県農業試験場 品種: テラウエア	0	-	0.008	0.007	<0.005	<0.005						
			3	14	5.54	5.41	5.72	5.68						
			3	29	3.89	3.84	4.07	3.98						
			3	44	2.84	2.82	2.90	2.86						
		三重県農業技術センター 伊賀農業センター 品種: 巨峰	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005						
			3	14	0.255	0.250	0.559	0.554						
			3	28	0.142	0.140	0.436	0.433						
			3	42	0.301	0.286	0.059	0.059						
			0	-	0.006	0.006	0.018	0.018						
			3	14	5.96	5.85	6.65	6.58						
ぶどう (露地・無袋) (果実) 平6年度	水和剤 (50.0%) 2000倍 400L/10a 散布	岩手県植物防疫協会 品種: テラウエア	3	30	3.55	3.52	4.88	4.61						
			3	44	3.16	3.05	3.15	3.04						
			0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005						
			3	14	1.30	1.30	1.00	0.978						
		長野県植物防疫協会 南信研究所 品種: 巨峰	3	30	0.701	0.698	1.09	1.06						
			3	44	0.591	0.575	0.288	0.283						
			0	-	0.017	0.016	0.008	0.008						
			3	14	0.372	0.370	0.271	0.263						
			3	30	0.258	0.254	0.275	0.271						
			3	45	0.129	0.128	0.039	0.039						
かき (露地・無袋) (果実) 平6年度	水和剤 (50.0%) 3000倍 400L/10a 散布	山形県砂丘地農業試験場 品種: 平核無	0	-	0.007	0.007	<0.005	<0.005						
			3	15	0.359	0.354	0.524	0.518						
			3	32	0.389	0.378	0.536	0.520						
			3	48	0.182	0.174	0.194	0.188						
		三重県農業技術センター 品種: 前川次郎	0	-	<2.0	<2.0	<2.0	<2.0						
			3	7	7.4	7.1	-	-						
			3	14	3.8	3.7	-	-						
			3	21	7.7	7.5	-	-						
			3	30	4.2	4.2	-	-						
			3	45	2.8	2.6	-	-						
かき(葉) (露地) (葉および葉柄) 平22年度	水和剤 (50.0%) 3000倍 600L/10a 葉葉散布	愛知県農業総合試験場 品種: 丹薩	0	-	<2.0	<2.0	<2.0	<2.0						
			3	7	38.3	37.6	-	-						
			3	14	24.0	23.6	-	-						
			3	20	18.4	17.8	-	-						
		和歌山県農林水産総合技術センター 果樹試験場かき・もも研究所 品種: 平核無	3	30	15.2	13.8	-	-						
			3	45	9.3	8.6	-	-						

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はBASF ジャパン株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量/使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	クレンキシムメチル分析結果(ppm)			代謝物の分析結果(ppm)			
					公的分析			社内分析			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値
キウイ フルーツ (露地・無袋) (果肉) 平7年度	水和剤 (50.0%) 2000倍 300L/10a 散布	山口県農業試験場 品種: モンテイ	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-
			3	1	0.042	0.042	0.173	0.172	-	-	-
			3	7	0.047	0.046	0.288	0.282	-	-	-
			3	14	0.037	0.036	0.231	0.227	-	-	-
			0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-
			3	1	0.056	0.055	0.205	0.203	-	-	-
キウイ フルーツ (露地・無袋) (果皮) 平7年度	水和剤 (50.0%) 2000倍 300L/10a 散布	大分県農業技術センター 品種: ヘイワード	3	7	0.061	0.060	0.080	0.080	-	-	-
			3	14	0.016	0.015	0.065	0.063	-	-	-
			0	-	0.03	0.02	0.062	0.056	-	-	-
			3	1	35.1	35.0	26.6	25.9	-	-	-
			3	7	32.8	32.6	38.7	38.6	-	-	-
			3	14	36.2	36.2	35.6	34.2	-	-	-
ブルーベリー (露地・無袋) (果実) 平17年度	水和剤 (50.0%) 2000倍 400L/10a 散布	大分県農業技術センター 品種: ヘイワード	0	-	<0.02	<0.02	0.034	0.034	-	-	-
			3	1	25.6	24.9	28.3	26.5	-	-	-
			3	7	28.2	27.4	18.5	18.2	-	-	-
			3	14	27.7	27.5	28.3	26.8	-	-	-
			0	-	-	-	<0.5	<0.5	-	-	-
			2	14	-	-	<0.5	<0.5	-	-	-
ネクタリン (露地・無袋) (果実) 平15年度	水和剤 (50.0%) 2000倍 400L/10a 散布	秋田県果樹試験場 品種: アーリーブルー	2	21	-	-	<0.5	<0.5	-	-	-
			2	30	-	-	<0.5	<0.5	-	-	-
			0	-	-	-	<0.5	<0.5	-	-	-
			2	14	-	-	3.1	3.0	-	-	-
			2	21	-	-	2.9	2.8	-	-	-
			2	29	-	-	1.7	1.6	-	-	-
ネクタリン (露地・無袋) (果実) 平15年度	水和剤 (50.0%) 2000倍 270L/10a 散布	長野県果樹試験場 品種: ジャージー	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	-	-	-
			3	1	2.35	2.26	1.92	1.86	-	-	-
			3	7	1.38	1.31	1.12	1.10	-	-	-
			3	14	1.05	1.04	1.02	1.02	-	-	-
			0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	-	-	-
			3	1	1.75	1.72	1.33	1.30	-	-	-
ネクタリン (露地・無袋) (果実) 平15年度	水和剤 (50.0%) 2000倍 400L/10a 散布	青森県植物防疫協会 (浅瀬石) 品種: サンライズ	3	7	1.19	1.18	1.34	1.34	-	-	-
			3	14	0.88	0.86	0.99	0.98	-	-	-
			0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	-	-	-
			3	1	1.75	1.72	1.33	1.30	-	-	-
			3	7	1.19	1.18	1.34	1.34	-	-	-
			3	14	0.88	0.86	0.99	0.98	-	-	-

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はBASF ジャパン株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量/使用方法	試験調製場所	使用 回数	経過 日数	クレソキシムメチル分析結果 (ppm)			代謝物の分析結果 (ppm)					
					公的分析			社内分析			社内分析		
					最高値	平均値	最低値	最高値	平均値	最低値	最高値	平均値	最低値
あけび (露地・無袋) (果実) 平15年度	水和剤 (50.0%) 3000倍 500L/10a 散布	山形県農業研究研修センター (新庄市) 品種: 交雑実生	0	-	<0.03	<0.03	-	-	-	-	-	-	
			3	7	0.31	0.30	-	-	-	-	-	-	
			3	14	0.36	0.34	-	-	-	-	-	-	
	水和剤 (50.0%) 3000倍 350L/10a 散布	山形県園芸試験場 (白鷹町) 品種: 鷹紫	0	-	<0.03	<0.03	-	-	-	-	-	-	
			3	7	0.34	0.33	-	-	-	-	-	-	
			3	14	0.14	0.14	-	-	-	-	-	-	
3	21	0.06	0.06	-	-	-	-	-	-	-			
ブルーン (露地・無袋) (果実) 平14年度	水和剤 (50.0%) 2000倍 300L/10a 散布	長野県果樹試験場 品種: スタンレイ	0	-	<0.05	<0.05	-	-	-	-	-	-	
			3	7	0.76	0.72	-	-	-	-	-	-	
			3	14	0.95	0.94	-	-	-	-	-	-	
	ブルーン (露地・無袋) (果実) 平16年度	水和剤 (50.0%) 2000倍 300L/10a 散布	長野県果樹試験場 品種: スタンレイ	0	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-
				3	7	0.9	0.8	-	-	-	-	-	-
				3	14	0.8	0.8	-	-	-	-	-	-
3	21	0.6	0.6	-	-	-	-	-	-	-			
さんしろう (露地) (果実) 平16年度	水和剤 (50.0%) 2000倍 300L/10a 散布	和歌山県農林水産総合技術 センター 果樹試験場 (清水町) 品種: ブドウ種	0	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	
			2	7	11.0	10.8	-	-	-	-	-	-	
			2	14	6.6	6.4	-	-	-	-	-	-	
	さんしろう (露地) (果実) 平17年度	水和剤 (50.0%) 2000倍 300L/10a 散布	和歌山県農林水産総合技術 センター 果樹試験場 (清水町) 品種: ブドウ種	2	21	4.3	4.2	-	-	-	-	-	-
				2	30	3.1	3.0	-	-	-	-	-	-
				2	44	1.4	1.4	-	-	-	-	-	-
0	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	-			
2	7	2.2	2.2	-	-	-	-	-	-	-			
2	14	1.4	1.4	-	-	-	-	-	-	-			
2	21	1.1	1.0	-	-	-	-	-	-	-			
2	30	0.7	0.7	-	-	-	-	-	-	-			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はBASF ジャパン株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量/使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	クレソキシムメチル分析結果 (ppm)			代酬物の分析結果 (ppm)						
					公的分析		社内分析		最高値		平均値		最高値	平均値
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値		
マンゴー (施設・無袋) (果実) 平 16 年度	水和剤 (50.0%) 2000 倍 200L/10a 散布	宮崎県総合農業試験場 (古城町) 品種: アーウィン	0	-	<0.05	<0.05	-	-	-	-	-	-		
			3	1	0.10	0.10	-	-	-	-	-	-		
			3	7	0.08	0.08	-	-	-	-	-	-	-	
			3	15	0.08	0.08	-	-	-	-	-	-	-	
マンゴー (施設・無袋) (果実) 平 16 年度	水和剤 (50.0%) 2000 倍 300L/10a 散布	宮崎県総合農業試験場 (野尻町) 品種: アーウィン	0	-	<0.05	<0.05	-	-	-	-	-	-		
			3	1	0.09	0.09	-	-	-	-	-	-		
			3	7	0.10	0.10	-	-	-	-	-	-	-	
			3	14	0.08	0.08	-	-	-	-	-	-	-	
バナナ (露地・無袋) (果実) 平 17 年度	水和剤 (50.0%) 2000 倍 200L/10a 散布	沖縄県病害虫防除所 (中城村) 品種: 三尺	0	-	-	<0.02	<0.02	-	-	-	-	-		
			3	7	-	0.92	0.92	-	-	-	-	-		
			3	14	-	2.03	2.03	-	-	-	-	-	-	
			3	21	-	1.95	1.95	-	-	-	-	-	-	
バナナ (施設・無袋) (果実) 平 17 年度	水和剤 (50.0%) 2000 倍 300L/10a 散布	宮崎県総合農業試験場 (西都市) 品種: さんじゃく	0	-	-	<0.02	<0.02	-	-	-	-	-		
			3	7	-	1.27	1.27	-	-	-	-	-		
			3	14	-	4.39	4.39	-	-	-	-	-	-	
			3	21	-	1.74	1.74	-	-	-	-	-	-	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はBASF ジャパン株式会社にある。

b) ストロビーフロアブル (44.2%)

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量/使用方法	試験圃場所	使用 回数	経過 日数	クレンキムメチル分析結果 (ppm)			代謝物の分析結果 (ppm)					
					公的分析			社内分析					
					最高値	平均値	最低値	最高値	平均値	最低値			
小麦 (露地) (種子) 平6年度	水和剤 (44.2%) 2000倍 100~150L/10a 散布	日本植物防疫協会研究所 品種：農林61号	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
			3	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
			3	32	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
			3	47	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
			0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
			3	14	0.018	0.018	<0.005	<0.005	<0.005				
			3	29	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
			3	45	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
			0	-	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02				
			3	14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02				
小麦 (露地) (種子) 平19年度	水和剤 (44.2%) 500倍 25L/10a 少量散布	日本植物防疫協会研究所 品種：農林61号	3	28	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02				
			3	42	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02				
			0	-	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02				
			3	14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02				
			3	28	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02				
			3	41	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02				
			0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
			3	14	0.285	0.282	0.288	0.288	0.288				
			3	30	0.025	0.024	0.011	0.011	0.010				
			3	45	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
大麦 (露地) (種子) 平6年度	水和剤 (44.2%) 2000倍 150L/10a 散布	日本植物防疫協会研究所 品種：弁慶	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
			3	14	1.29	1.25	1.92	1.91	1.91				
			3	28	0.081	0.080	0.072	0.071	0.071				
			3	42	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
			0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
			3	14	1.29	1.25	1.92	1.91	1.91				
			3	28	0.081	0.080	0.072	0.071	0.071				
			3	42	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
			0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
			3	14	0.285	0.282	0.288	0.288	0.288				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はBASF ジャパン株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量/使用方法	試験圃場所	使用 回数	経過 日数	クレソキシムメチル分析結果 (ppm)			代謝物の分析結果 (ppm)				
					公的分析			社内分析				
					最高値	平均値	最低値	最高値	平均値	最低値		
きゅうり (施設) (果実) 平6年度	水和剤 (44.2%) 3000倍 250~300L/10a 散布	日本植物防疫協会研究所 品種: トップグリーン	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
			3	1	0.130	0.130	0.069	0.068				
			3	3	0.035	0.035	0.040	0.040				
			3	7	0.007	0.006	0.006	0.006				
			0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
			3	1	0.077	0.076	0.126	0.122				
			3	3	0.018	0.018	0.030	0.030				
ピーマン (施設) (果実) 平6年度	水和剤 (44.2%) 3000倍 300L/10a 散布	群馬県植物防疫協会 (二之宮町) 品種: シヤープ1 × ストロング一輝	3	7	<0.005	<0.005	0.014	0.014				
			0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
			3	1	0.391	0.382	0.396	0.362				
			3	3	0.268	0.254	0.285	0.278				
			3	7	0.106	0.104	0.048	0.046				
			0	-	<0.005	<0.005	0.006	0.006				
			3	1	0.865	0.829	0.656	0.633				
葉ねぎ (露地) (茎葉) 平6年度	水和剤 (44.2%) 2000倍 100L/10a 散布	長野県中信農業試験場 品種: 京波	3	3	0.561	0.536	0.184	0.174				
			3	7	0.347	0.333	0.327	0.322				
			0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
			3	7	0.405	0.397	0.463	0.442				
			3	14	0.038	0.036	0.057	0.052				
			3	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
			0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
葉ねぎ (露地) (茎葉) 平6年度	水和剤 (44.2%) 2000倍 100L/10a 散布	静岡県農業試験場 品種: 九条浅黄系	3	7	0.784	0.773	0.758	0.710				
			3	14	0.058	0.056	0.046	0.044				
			3	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
			0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
			3	7	0.784	0.773	0.758	0.710				
			3	14	0.058	0.056	0.046	0.044				
			3	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はBASF ジャパン株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量/使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	クレシキシムメチル分析結果(ppm)			代謝物の分析結果(ppm)					
					公的分析			社内分析					
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
根深ねざ (露地) (茎葉) 平6年度	水和剤 (44.2%) 2000倍 100L/10a 散布	埼玉県植物防疫協会 品種: 長悦	0	-	-	<0.005	<0.005	-	-	-	-		
			3	7	-	-	0.834	0.790	-	-	-		
			3	14	-	-	0.330	0.328	-	-	-		
			3	30	-	-	0.067	0.058	-	-	-		
			0	-	-	-	<0.005	<0.005	-	-	-		
			3	7	-	-	0.342	0.334	-	-	-		
かぼちゃ (露地) (果実) 平7年度	水和剤 (44.2%) 3000倍 250L/10a 散布	愛知県植物防疫協会 品種: 越津	3	14	-	-	0.066	0.062	-	-	-		
			3	30	-	-	<0.005	<0.005	-	-			
			0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-			
			3	1	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-			
			3	3	0.006	0.006	<0.005	<0.005	-	-			
			3	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-			
メロン (施設・無袋) (果実) 平8年度	水和剤 (44.2%) 2000倍 200L/10a 散布	日本植物防疫協会研究所 高知試験場 品種: えびす	3	1	0.056	0.056	0.061	0.060	-	-	-		
			3	3	0.035	0.034	0.066	0.062	-	-			
			3	7	0.067	0.066	0.059	0.054	-	-			
			0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-			
			3	1	<0.005	<0.005	0.020	0.018	-	-			
			3	3	<0.005	<0.005	0.009	0.008	-	-			
ずいか (施設) (果実) 平8年度	水和剤 (44.2%) 2000倍 200L/10a 散布	愛知県農業総合試験場 園芸研究所 品種: 6-7アールスレイザー	3	7	<0.005	<0.005	0.017	0.016	-	-			
			0	-	<0.005	<0.005	0.009	0.009	-	-			
			3	1	<0.005	<0.005	0.012	0.012	-	-			
			3	4	<0.005	<0.005	0.007	0.006	-	-			
			3	8	<0.005	<0.005	0.006	0.006	-	-			
			0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-			
和歌山県植物防疫協会 品種: 黄こだま	水和剤 (44.2%) 2000倍 200L/10a 散布	和歌山県植物防疫協会 品種: 黄こだま	3	1	<0.005	<0.005	0.026	0.026	-	-			
			3	3	<0.005	<0.005	0.016	0.016	-	-			
			3	7	<0.005	<0.005	0.012	0.012	-	-			
			0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-			
			3	1	<0.005	<0.005	0.015	0.014	-	-			
			3	3	0.020	0.020	0.017	0.014	-	-			
日本植物防疫協会研究所 高知試験場 品種: 早生天竜	水和剤 (44.2%) 2000倍 200L/10a 散布	日本植物防疫協会研究所 高知試験場 品種: 早生天竜	3	7	0.021	0.020	0.006	0.006	-	-			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はBASF ジャパン株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量/使用方法	試験圃製場所	使用 回数	経過 日数	クレシキムメチル分析結果 (ppm)						代謝物の分析結果 (ppm)					
					公的分析			社内分析			公的分析			社内分析		
					最高値	平均値	最低値	最高値	平均値	最低値	最高値	平均値	最低値	最高値	平均値	最低値
いちご (施設) (果実) 平9年度	水和剤 (44.2%) 3000倍 250L/10a 散布	栃木県植物防疫協会 品種：女峰	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-	-		
			3	1	0.440	0.430	0.567	0.553	-	-	-	-	-	-		
			3	3	0.481	0.472	0.399	0.384	-	-	-	-	-	-	-	
			3	7	0.236	0.228	0.188	0.180	-	-	-	-	-	-	-	
			0	-	0.539	0.523	0.414	0.408	-	-	-	-	-	-	-	
			3	1	2.19	2.12	2.18	2.18	-	-	-	-	-	-	-	
			3	3	1.83	1.76	2.02	2.00	-	-	-	-	-	-	-	
いんげん (露地) (鮮莖) 平9年度	水和剤 (44.2%) 2000倍 200L/10a 散布	青森県農業試験場 品種：福地ホワイト	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-	-		
			3	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-	-		
			3	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			3	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			3	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			3	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
てんさい (露地) (根部) 平8年度	水和剤 (44.2%) 2000倍 120L/10a 散布	北海道北見農業試験場 (訓子府町) 品種：スターヒル	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-	-		
			5	21	0.015	0.014	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			5	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			5	43	0.009	0.008	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			5	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			5	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
なす (施設) (果実) 平9年度	水和剤 (44.2%) 1000倍 200L/10a 散布	群馬県植物防疫協会 品種：一富士	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-	-		
			3	1	0.460	0.442	1.13	1.13	-	-	-	-	-	-		
			3	3	0.386	0.384	0.618	0.610	-	-	-	-	-	-		
			3	7	0.091	0.088	0.222	0.218	-	-	-	-	-	-		
			0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			3	1	1.09	1.06	0.991	0.990	-	-	-	-	-	-		
			3	3	0.367	0.358	0.596	0.596	-	-	-	-	-	-		
日本植物防疫協会研究所 高知試験場 品種：竜馬	3	7	0.274	0.271	0.247	0.245	-	-	-	-	-	-	-			
			0.274	0.271	0.247	0.245	-	-	-	-	-	-	-			
			0.274	0.271	0.247	0.245	-	-	-	-	-	-	-			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はBASF ジャパン株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量/使用方法	試験圃製場所	使用 回数	経過 日数	クレソキシムメチル分析結果 (ppm)			代謝物の分析結果 (ppm)			
					公的分析			社内分析			
					最高値	平均値	最低値	最高値	平均値	最低値	
はくさい (露地) (莖葉) 平10年度	水和剤 (44.2%) 3000倍 200L/10a 散布	岩手県植物防疫協会 品種：金符	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-	-
			3	3	0.985	0.983	0.338	0.338	-	-	-
			3	7	0.293	0.279	0.103	0.103	-	-	-
		3	14	0.143	0.136	0.007	0.006	-	-	-	
		0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-	
		3	3	0.688	0.671	0.025	0.024	-	-	-	
にんじん (露地) (根部) 平10年度	水和剤 (44.2%) 2000倍 200L/10a 散布	岐阜県植物防疫協会 品種：弘法	3	7	0.138	0.136	0.006	0.006	-	-	-
			3	14	0.440	0.416	<0.005	<0.005	-	-	-
			0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-
		3	7	0.052	0.050	0.043	0.043	-	-	-	
		3	14	0.029	0.028	0.033	0.032	-	-	-	
		3	21	0.028	0.028	0.021	0.020	-	-	-	
やまのいも (露地) (塊茎) 平10年度	水和剤 (44.2%) 2000倍 250L/10a 散布	北海道植物防疫協会 品種：鮮紅7寸	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-
			3	7	0.008	0.008	0.009	0.009	-	-	-
			3	14	0.006	0.006	0.007	0.006	-	-	-
		3	21	<0.005	<0.005	0.006	0.006	-	-	-	
		0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-	
		3	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-	
青森県畑作園芸試験場 品種：ながいも	水和剤 (44.2%) 2000倍 250L/10a 散布	日本植物防疫協会研究所 品種：晴明5寸	3	7	0.008	0.008	0.009	0.009	-	-	-
			3	14	0.006	0.006	0.007	0.006	-	-	-
			3	21	<0.005	<0.005	0.006	0.006	-	-	-
		0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-	
		3	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-	
		3	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-	
日本植物防疫協会研究所 品種：在来種	水和剤 (44.2%) 2000倍 250L/10a 散布	青森県畑作園芸試験場 品種：ながいも	3	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-
			3	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-
			3	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-
		0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-	
		3	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-	
		3	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はBASF ジャパン株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量/使用方法	試験調製場所	使用 回数	経過 日数	クレソキシムメチル分析結果 (ppm)			代謝物の分析結果 (ppm)					
					公的分析			社内分析					
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値		
茶 (露地) (簡易被覆*) (荒茶) 平 10 年度	水和剤 (44.2%) 3000 倍 200L/10a 散布	三重県農業技術センター 茶業センター南勢茶試験地 品種：やぶきた	0	-	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	-	-	-		
			3	7	32.4	31.7	29.2	29.1	-	-	-		
			3	10	6.98	6.82	8.36	8.28	-	-	-		
		奈良県農業試験場 茶業分場 品種：やぶきた	3	17	4.75	4.66	5.67	5.56	-	-	-	-	
			3	28	0.03	0.02	0.04	0.04	-	-	-	-	
			0	-	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	-	-	-	-	
		三重県農業技術センター 茶業センター南勢茶試験地 品種：やぶきた	3	7	5.77	5.60	7.90	7.88	-	-	-	-	
			3	10	5.97	5.90	7.43	7.28	-	-	-	-	
			3	14	0.18	0.17	0.44	0.43	-	-	-	-	
		茶 (露地) (簡易被覆*) (浸出液) 平 10 年度	水和剤 (44.2%) 3000 倍 200L/10a 散布	三重県農業技術センター 茶業センター南勢茶試験地 品種：やぶきた	3	28	<0.02	<0.02	0.07	0.06	-	-	-
					0	-	-	-	<0.03	<0.03	-	-	-
					3	7	-	-	5.84	5.70	-	-	-
奈良県農業試験場 茶業分場 品種：やぶきた	3			10	-	-	1.62	1.52	-	-	-	-	
	3			17	-	-	1.13	1.08	-	-	-	-	
	3			28	-	-	<0.03	<0.03	-	-	-	-	
群馬県植物防疫協会	0			-	-	-	<0.03	<0.03	-	-	-	-	
	3			7	-	-	1.54	1.50	-	-	-	-	
	3			10	-	-	1.31	1.30	-	-	-	-	
日本植物防疫協会研究所 高知試験場	3			14	-	-	0.06	0.06	-	-	-	-	
	3			28	-	-	<0.03	<0.03	-	-	-	-	
	0			-	<0.05	<0.05	0.008	0.008	-	-	-	-	
にら (施設) (産葉) 平 11 年度	水和剤 (44.2%) 3000 倍 150L/10a 散布	群馬県植物防疫協会	3	1	4.98	4.94	7.20	7.10	-	-	-		
			3	3	8.18	8.03	8.58	8.49	-	-	-		
			3	7	3.54	3.52	5.79	5.72	-	-	-		
		日本植物防疫協会研究所 高知試験場	0	-	<0.05	<0.05	<0.005	<0.005	-	-	-	-	
			3	1	16.7	16.6	15.8	15.8	-	-	-	-	
			3	3	13.8	13.5	17.2	17.2	-	-	-	-	
		3	7	15.3	14.8	14.4	14.3	-	-	-	-		

* 摘採前 10 日間寒冷紗#610 により簡易被覆

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はBASF ジャパン株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量/使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	クレソキムメチル分析結果 (ppm)				代謝物の分析結果 (ppm)				
					公的分析		社内分析		最高値	平均値	最高値	平均値	
					最高値	平均値	最高値	平均値					
たまねぎ (露地) (蒔き) 平 12 年度	水和剤 (44.2%) 2000 倍 150L/10a 散布	北海道中央農業試験場 品種：スーパー北もみじ	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-	-	
			3	1	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-	-	
			3	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-	-	
		兵庫県淡路路 農業技術センター 品種：ターボ	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-	-
			3	1	0.030	0.029	0.081	0.080	-	-	-	-	-
			3	7	<0.005	<0.005	0.027	0.026	-	-	-	-	-
3	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-	-	-	-	-		
食用さく (施設) (花卉) 平 15 年度	水和剤 (44.2%) 3000 倍 493L/10a 散布	山形県園芸試験場 品種：寿	0	-	<0.02	<0.02	-	-	-	-	-	-	
			2	3	18.7	18.6	-	-	-	-	-	-	
			2	7	10.7	10.0	-	-	-	-	-	-	
	愛知県農業総合試験場 品種：金鐘	2	14	2.59	2.57	-	-	-	-	-	-	-	
		0	-	<0.02	<0.02	-	-	-	-	-	-	-	
		2	3	7.00	6.72	-	-	-	-	-	-	-	
なばな (露地) (花莖) 平 11 年度	水和剤 (44.2%) 3000 倍 200L/10a 散布	徳島県農業試験場 (石井町) 品種：早陽花菜 1号	2	7	2.76	2.72	-	-	-	-	-	-	
			2	14	1.00	1.00	-	-	-	-	-	-	
			0	-	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04	-	-	-	-	
		香川県農業試験場 (三木町) 品種：瀬戸の春	2	1	12.6	12.3	15.8	15.4	-	-	-	-	
			2	3	8.00	7.85	11.3	11.2	-	-	-	-	
			2	7	2.10	2.02	1.53	1.50	-	-	-	-	
2	14	1.22	1.22	0.86	0.84	-	-	-	-				
0	-	<0.02	<0.02	<0.04	<0.04	-	-	-	-				
2	1	9.12	8.93	11.4	11.3	-	-	-	-				
2	3	5.18	5.17	7.85	7.62	-	-	-	-				
2	7	2.23	2.22	3.69	3.69	-	-	-	-				
2	14	0.61	0.62	1.06	1.06	-	-	-	-				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はBASF ジャパン株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量/使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	クレソキシムメチル分析結果 (ppm)			代謝物の分析結果 (ppm)				
					公的分析		社内分析		公的分析		社内分析	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
たらのき (露地/施設) (茎葉) 平 15 年度	水和剤 (44.2%) 2000 倍 300L/10a 散布	新潟県農業総合研究所 品種：蔵王	0	-	<0.01	<0.01	-	-	-	-	-	
			2	76	0.02	0.02	-	-	-	-	-	
			2	87	0.02	0.02	-	-	-	-	-	
		群馬県農業技術センター 品種：新駒	2	95	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-
			0	-	<0.01	<0.01	-	-	-	-	-	-
			2	67	0.05	0.04	-	-	-	-	-	
2	81	0.11	0.10	-	-	-	-	-	-			
2	85	0.05	0.04	-	-	-	-	-	-			
すいぜんじな (施設) (茎葉) 平 15 年度	水和剤 (44.2%) 3000 倍 200L/10a 散布	石川県農業総合研究所センター (かほく市) 品種：在来種	0	-	<0.03	<0.03	-	-	-	-	-	
			2	7	27.0	26.6	-	-	-	-	-	
			2	14	14.9	14.2	-	-	-	-	-	
		石川県農業総合研究所センター (金沢市) 品種：在来種	2	21	3.8	3.6	-	-	-	-	-	-
			0	-	<0.03	<0.03	-	-	-	-	-	-
			2	7	19.9	19.8	-	-	-	-	-	
2	14	15.3	15.0	-	-	-	-	-	-			
2	21	7.9	7.8	-	-	-	-	-	-			
アスハラガス (施設) (若茎部) 平 15 年度	水和剤 (44.2%) 2000 倍 300L/10a 散布	新潟県農総研園芸研究所 品種：グリーンタワー	0	-	<0.3	<0.3	-	-	-	-	-	
			3	1	0.5	0.5	-	-	-	-	-	
			3	3	<0.3	<0.3	-	-	-	-	-	
		熊本県産本農業改良普及センター (鹿本町) 品種：ウエルカム	3	7	<0.3	<0.3	-	-	-	-	-	-
			0	-	<0.3	<0.3	-	-	-	-	-	-
			3	1	<0.3	<0.3	-	-	-	-	-	
3	3	<0.3	<0.3	-	-	-	-	-	-			
3	7	<0.3	<0.3	-	-	-	-	-	-			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はBASF ジャパン株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量/使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	クレソキシムメチル分析結果 (ppm)				代謝物の分析結果 (ppm)			
					公的分析		社内分析		公的分析		社内分析	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
たかな (露地) (茎葉) 平 16 年度	水和剤 (44.2%) 3000 倍 200L/10a 散布	山形県砂丘地農業試験場 (酒田市) 品種: 山形せいさい	0	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-
			2	7	4.8	4.8	-	-	-	-	-	-
			2	14	0.4	0.4	-	-	-	-	-	-
			2	21	0.2	0.2	-	-	-	-	-	-
			0	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-
		山形県農業研修センター (新庄市) 品種: 山形せいさい	2	7	1.5	1.5	-	-	-	-	-	-
			2	14	0.3	0.3	-	-	-	-	-	-
			2	21	0.1	0.1	-	-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
たいさい (露地) (茎葉) 平 16 年度	水和剤 (44.2%) 3000 倍 200L/10a 散布	山形県園芸試験場 (米沢市) 品種: 長岡菜	0	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-
			2	7	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
			2	14	0.9	0.9	-	-	-	-	-	-
			2	21	0.3	0.3	-	-	-	-	-	-
			0	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-
		山形県園芸試験場 (南陽市) 品種: 長岡菜	2	7	3.5	3.4	-	-	-	-	-	-
			2	14	2.6	2.5	-	-	-	-	-	-
			2	21	0.3	0.3	-	-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
わけぎ (露地) (茎葉) 平 16 年度	水和剤 (44.2%) 3000 倍 200L/10a 散布	広島県農業技術センター (岩子島) 品種: 広島 2 号	0	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-
			2	7	2.3	2.3	-	-	-	-	-	-
			2	14	1.3	1.2	-	-	-	-	-	-
			2	21	0.3	0.3	-	-	-	-	-	-
			0	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-
		広島県農業技術センター (木原町) 品種: 広島 2 号	2	7	2.7	2.6	-	-	-	-	-	-
			2	14	1.5	1.4	-	-	-	-	-	-
			2	21	0.1	0.1	-	-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はBASF ジャパン株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量/使用方法	試験調整場所	使用 回数	経過 日数	クレソキシムメチル分析結果 (ppm)				代謝物の分析結果 (ppm)							
					公的分析		社内分析		最高値		平均値		最高値		平均値	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値				
やまのいも (むかご) (露地) 平 16 年度	水和剤 (44.2%) 2000 倍 300L/10a 散布	青森県農林総合研究所 品種：在来種	0	-	<0.04	<0.04	-	-	-	-	-	-	-			
			3	7	0.56	0.56	-	-	-	-	-	-				
			3	14	0.24	0.22	-	-	-	-	-	-				
		鳥取県園芸試験場 品種：在来種	3	21	0.60	0.58	-	-	-	-	-	-	-			
			0	-	<0.04	<0.04	-	-	-	-	-	-	-			
			3	7	0.70	0.68	-	-	-	-	-	-				
3	14	0.20	0.18	-	-	-	-	-	-	-						
3	21	0.47	0.46	-	-	-	-	-	-	-	-					
食用ゆり (露地) (蒔き) 平 16 年度	水和剤 (44.2%) 2000 倍 200L/10a 散布	北海道中央農業試験場 (真狩村) 品種：白銀	0	-	<0.01	<0.01	-	-	-	-	-	-				
			3	7	<0.01	<0.01	-	-	-	-	-	-				
			3	14	<0.01	<0.01	-	-	-	-	-	-				
		北海道花・野菜技術センター (高良野市) 品種：白銀	3	21	<0.01	<0.01	-	-	-	-	-	-	-			
			0	-	<0.01	<0.01	-	-	-	-	-	-	-			
			3	7	<0.01	<0.01	-	-	-	-	-	-				
3	14	<0.01	<0.01	-	-	-	-	-	-	-						
3	21	<0.01	<0.01	-	-	-	-	-	-	-						
パセリ (施設) (茎葉) 平 16 年度	水和剤 (44.2%) 3000 倍 200L/10a 散布	茨城県農業総合センター (鉾田町) 品種：グランド	0	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-				
			1	7	15.8	15.4	-	-	-	-	-	-				
			1	14	8.9	8.4	-	-	-	-	-	-				
		静岡県農業試験場 (大久保町) 品種：選抜 3 号	1	21	11.4	10.8	-	-	-	-	-	-	-			
			0	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	-			
			1	7	21.7	21.5	-	-	-	-	-	-				
1	14	7.2	7.2	-	-	-	-	-	-	-						
1	21	18.3	18.2	-	-	-	-	-	-	-						

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はBASF ジャパン株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量/使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	クレソキシムメチル分析結果 (ppm)				代謝物の分析結果 (ppm)							
					公的分析		社内分析		最高値		平均値		最高値		平均値	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値		
しそ (施設) (葉) 平 16 年度 平 17 年度	水和剤 (44.2%) 4000 倍 100L/10a 散布	高知県農業技術センター (南国市) 品種：在来種	0	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	-	-		
			1	7	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-		
			1	14	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			1	21	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			0	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			1	7	7	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
しそ (施設) (茎葉) 平 22 年度 平 21 年度	水和剤 (44.2%) 3000 倍 200L/10a 散布	愛知県農業総合試験場 (豊橋市) 品種：選抜種	0	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	-	-		
			2	3	21.1	20.6	-	-	-	-	-	-	-	-		
			2	7	4.7	4.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			2	14	0.4	0.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			0	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			2	3	16.9	16.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ししとう (施設) (果実) 平 17 年度	水和剤 (44.2%) 4000 倍 300L/10a 散布	岩手県植物防疫協会 品種：サカタのししとう	0	-	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1		
			2	1	0.5	0.5	0.3	0.3	-	-	-	-	-	-		
			2	3	0.4	0.4	0.3	0.3	-	-	-	-	-	-	-	
			2	7	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	-	
			0	-	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	-	
			2	1	0.8	0.8	0.7	0.7	-	-	-	-	-	-	-	
タアサイ (施設) (茎葉) 平 15 年度	水和剤 (44.2%) 3000 倍 200L/10a 散布	静岡県農業試験場 (磐田) 品種：緑菜 2 号	0	-	<0.5	<0.5	-	-	-	-	-	-	-	-		
			3	1	6.1	6.0	-	-	-	-	-	-	-	-		
			3	7	2.8	2.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			3	14	3.0	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			0	-	<0.5	<0.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			3	1	19.1	18.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		静岡県農業試験場 (浜松) 品種：緑菜 2 号	3	7	18.7	18.2	-	-	-	-	-	-	-	-		
			3	14	7.9	7.8	-	-	-	-	-	-	-	-		
			3	14	7.9	7.8	-	-	-	-	-	-	-	-		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はBASF ジャパン株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量/使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	クレソキシムメチル分析結果 (ppm)				代謝物の分析結果 (ppm)						
					公的分析		社内分析		公的分析		社内分析				
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値			
のざわな (露地) (茎葉) 平17年度	水和剤 (44.2%) 3000倍 50~200L/10a 散布	山梨県総合農業試験場 (埴川町) 品種: 野沢菜	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			3	14	-	-	<0.02	<0.02	-	-	-	-	-	-	
			3	21	-	-	0.87	0.85	-	-	-	-	-	-	
		山梨県総合農業試験場 (豊富村) 品種: 野沢菜	3	28	-	-	0.58	0.58	-	-	-	-	-	-	-
			0	-	-	-	0.05	0.04	-	-	-	-	-	-	-
			3	14	-	-	<0.02	<0.02	-	-	-	-	-	-	-
3	21	-	-	2.77	2.72	-	-	-	-	-	-	-			
3	28	-	-	0.83	0.82	-	-	-	-	-	-	-			
3	28	-	-	0.03	0.03	-	-	-	-	-	-	-	-		
葉にんにく (露地) (葉・鱗茎) 平16年度	水和剤 (44.2%) 2000倍 200L/10a 散布	静岡県農業試験場 (三新町) 品種: 嘉定	0	-	<0.5	<0.5	-	-	-	-	-	-	-	-	
			3	7	6.4	6.2	-	-	-	-	-	-	-	-	
			3	14	4.1	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
		高知県農業技術センター (香野町) 品種: 上湯早生	3	21	1.6	1.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			3	-	<1	<1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			3	7	28	28	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	14	17	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
3	21	10	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
しゅんぎく (施設) (茎葉) 平15年度	水和剤 (44.2%) 3000倍 200L/10a 散布	青森県森林総合研究所 如作園芸試験場 品種: さとゆたか	0	-	<0.02	<0.02	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
			3	3	29.7	29.4	22.9	22.0	-	-	-	-	-	-	
			3	7	15.3	15.1	11.7	11.6	-	-	-	-	-	-	
		宮城県農業総合研究所 品種: さとゆたか	3	14	6.35	6.16	4.16	4.12	-	-	-	-	-	-	
			0	-	<0.02	<0.02	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
			3	3	31.2	31.0	22.9	22.8	-	-	-	-	-	-	
3	7	24.6	24.2	16.5	16.0	-	-	-	-	-	-				
3	14	13.2	13.1	10.8	10.8	-	-	-	-	-	-				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はBASF ジャパン株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析単位) 実施年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量/使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	クレソキシムメチル分析結果 (ppm)				代購物の分析結果 (ppm)							
					公的分析		社内分析		最高値		平均値		最高値		平均値	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値				
きゅうり (施設) (花・果実) 平 16 年度	水和剤 (44.2%) 3000 倍 200L/10a 散布	愛知県農業総合試験場 (下条東町) 品種：ハミング	0	-	-	<0.05	<0.05	-	-	-	-	-	-			
			2	3	-	0.12	0.10	-	-	-	-	-	-			
			2	7	-	<0.05	<0.05	-	-	-	-	-	-			
		愛知県農業総合試験場 (西七根町) 品種：ハミング	2	14	-	<0.05	<0.05	-	-	-	-	-	-	-		
			0	-	-	<0.05	<0.05	-	-	-	-	-	-	-		
			2	3	-	0.07	0.06	-	-	-	-	-	-	-		
2	7	-	<0.05	<0.05	-	-	-	-	-	-	-	-				
2	14	-	<0.05	<0.05	-	-	-	-	-	-	-	-				
バジル (施設) (葉) 平 16 年度	水和剤 (44.2%) 3000 倍 200L/10a 散布	愛知県農業総合試験場 (野口町) 品種：スイートバジル	0	-	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-			
			2	7	-	1.6	1.6	-	-	-	-	-	-			
			2	14	-	0.2	0.2	-	-	-	-	-	-			
		愛知県農業総合試験場 (大村町) 品種：スイートバジル	2	21	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	-		
			0	-	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	-		
			2	7	-	2.6	2.6	-	-	-	-	-	-	-		
2	14	-	0.5	0.5	-	-	-	-	-	-	-	-				
2	21	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	-	-				
はっか (施設) (葉) 平 16 年度	水和剤 (44.2%) 3000 倍 200L/10a 散布	愛知県農業総合試験場 (野口町) 品種：スペアミント	0	-	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-			
			2	7	-	1.6	1.6	-	-	-	-	-	-			
			2	14	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-			
		愛知県農業総合試験場 (東七根町) 品種：ペパーミント	2	21	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	-		
			0	-	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	-		
			2	7	-	2.2	1.7	-	-	-	-	-	-	-		
2	14	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	-					
2	21	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	-					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はBASF ジャパン株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量/使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	クレソキシムメチル分析結果 (ppm)				代謝物の分析結果 (ppm)					
					公的分析		社内分析		公的分析		社内分析			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値		
食用金魚草 (施設) (花) 平 16 年度	水和剤 (44.2%) 3000 倍 150L/10a 散布	愛知県農業総合試験場 (下条西町) 品種：豊構温室選抜	0	-	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	
			2	7	-	1.2	1.2	-	-	-	-	-	-	
			2	14	-	0.1	0.1	-	-	-	-	-	-	-
			2	21	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	-
		愛知県農業総合試験場 (横須賀町) 品種：豊構温室選抜	0	-	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	-
			2	7	-	1.1	1.0	-	-	-	-	-	-	-
2	14	-	0.4	0.4	-	-	-	-	-	-	-	-		
2	21	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	-	-		
さく (施設) (葉) 平 17, 18 年度	水和剤 (44.2%) 3000 倍 200L/10a 散布	愛知県農業総合試験場 (天伯町) 品種：豊構温室選抜	0	-	-	<0.5	<0.5	-	-	-	-	-	-	
			2	3	-	21.7	21.6	-	-	-	-	-	-	
			2	7	-	6.4	5.8	-	-	-	-	-	-	-
			2	14	-	0.8	0.7	-	-	-	-	-	-	-
		愛知県農業総合試験場 (下条東町) 品種：天ヶ原	0	-	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	-
			3	3	-	39.3	38.8	-	-	-	-	-	-	-
3	7	-	10.7	10.4	-	-	-	-	-	-	-	-		
3	14	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	-	-		
サラダ菜 (施設) (莖葉) 平 17 年度	水和剤 (44.2%) 3000 倍 100L/10a 散布	千葉県農業総合研究所、 千葉農林振興センター (大高町) 品種：チカダ試行 No. 5	0	-	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	
			3	3	-	3.0	2.6	-	-	-	-	-	-	
			3	7	-	1.1	1.0	-	-	-	-	-	-	-
			3	14	-	0.5	0.4	-	-	-	-	-	-	-
		千葉県農業総合研究所、 長生農林振興センター (白子町) 品種：チカダ試行 No. 5	0	-	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	-
			3	3	-	3.8	3.8	-	-	-	-	-	-	-
3	7	-	2.4	2.2	-	-	-	-	-	-	-	-		
3	14	-	0.2	0.2	-	-	-	-	-	-	-	-		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はBASF ジャパン株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量/使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	クレソキムメチル分析結果 (ppm)				代謝物の分析結果 (ppm)							
					公的分析		社内分析		最高値		平均値		最高値		平均値	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値				
らっきょう (露地) (鱗茎) 平 18 年度	水和剤 (44.2%) 200 倍 浸漬処理	鳥取県園芸試験場 (北栄町) 品種：らくだ	0	-	<3	<3	-	-	-	-	-	-	-	-		
			1	91	<3	<3	-	-	-	-	-	-	-	-		
			1	120	<3	<3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			1	150	<3	<3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			1	282	<3	<3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		鳥取県園芸試験場 与浜砂丘地分場 (境港市) 品種：在来種	0	-	<3	<3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			1	90	<3	<3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			1	120	<3	<3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			1	150	<3	<3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			1	273	<3	<3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
セルリー (施設) (莖葉) 平 18 年度	水和剤 (44.2%) 3000 倍 300L/10a 散布	長野県中信農業試験場 品種：松本 1 号	0	-	<0.03	<0.03	<0.05	<0.05	-	-	-	-	-			
			3	1	6.66	6.52	6.27	6.04	-	-	-	-	-			
			3	7	5.76	5.26	3.73	3.67	-	-	-	-	-			
			3	14	3.92	3.87	4.06	4.00	-	-	-	-	-			
			0	-	<0.03	<0.03	<0.05	<0.05	-	-	-	-	-			
		福岡県農業総合試験場 (瀬高町) 品種：コーネル 619	3	1	3.07	3.02	1.78	1.78	-	-	-	-	-	-		
			3	7	2.86	2.82	4.73	4.66	-	-	-	-	-	-		
			3	14	2.08	1.96	4.02	3.90	-	-	-	-	-	-		
			0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
			0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
食用トレ-7 (施設) (花柄) 平 19 年度	水和剤 (44.2%) 4000 倍 150L/10a 散布	愛知県農業総合試験場 (大村町) 品種：サカサキ-ス-774	0	-	-	-	<0.05	<0.05	-	-	-	-	-			
			2	3	-	-	4.73	4.59	-	-	-	-	-			
			2	7	-	-	2.22	2.12	-	-	-	-	-			
			2	14	-	-	0.35	0.34	-	-	-	-	-			
			0	-	-	-	<0.05	<0.05	-	-	-	-	-			
		愛知県農業総合試験場 (小坂井町) 品種：サカサキ-ス-774	2	3	-	-	10.9	10.8	-	-	-	-	-	-		
			2	7	-	-	6.17	6.16	-	-	-	-	-	-		
			2	14	-	-	1.30	1.24	-	-	-	-	-			
			0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
			0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はBASF ジャパン株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数又は 使用量/使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	クレソキムメチル分析結果 (ppm)				代謝物の分析結果 (ppm)							
					公的分析		社内分析		最高値		平均値		最高値		平均値	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値				
食用ハジゲ (施設 (花柄) 平19年度	水和剤 (44.2%) 4000倍 150L/10a 散布	愛知県農業総合試験場 (川崎町) 品種: ナルビシカ	0	-	-	-	<0.05	<0.05	<0.05	-	-	-	-			
			2	7	-	-	11.1	11.1	-	-	-	-				
			2	14	-	-	2.20	2.14	-	-	-	-				
			2	21	-	-	0.39	0.38	-	-	-	-				
		愛知県農業総合試験場 (横須賀町) 品種: ビワ 乾* ッカ ハイレット	0	-	-	-	-	<0.05	<0.05	-	-	-	-			
			2	7	-	-	3.50	3.40	-	-	-	-				
			2	14	-	-	0.35	0.35	-	-	-	-				
			2	21	-	-	0.10	0.10	-	-	-	-				
ズッキーニ (露地) (果実) 平17,19 年度	水和剤 (44.2%) 3000倍 300L/10a 散布	長野県野菜花き試験場 (飯山市) 品種: 協和種苗 KZ-2	0	-	<0.05	<0.05	-	-	-	-	-	-				
			3	1	0.58	0.56	-	-	-	-	-	-				
			3	3	0.34	0.32	-	-	-	-	-	-				
			3	7	0.05	0.05	-	-	-	-	-	-				
		福岡県農業総合試験場 (小郡市) 品種: プラタクト	0	-	<0.05	<0.05	-	-	-	-	-	-	-			
			3	1	0.31	0.31	-	-	-	-	-	-	-			
			3	3	0.17	0.16	-	-	-	-	-	-	-			
			3	7	<0.05	<0.05	-	-	-	-	-	-	-			
食用かえで (露地) (葉、葉柄、 枝) 平20年度	水和剤 (44.2%) 3000倍 200L/10a 散布	愛知県農業総試 (吉良町) 品種: -	0	-	-	-	<0.1	<0.1	<0.1	-	-	-				
			2	21	-	-	83.0	81.5	-	-	-	-				
			2	30	-	-	57.6	56.5	-	-	-	-				
			2	45	-	-	45.2	44.6	-	-	-	-				
		福岡県農業総合試験場 (幸田町) 品種: -	0	-	-	-	-	<0.1	<0.1	<0.1	-	-	-			
			2	21	-	-	44.1	44.0	-	-	-	-				
			2	30	-	-	42.1	41.2	-	-	-	-				
			2	45	-	-	31.0	30.2	-	-	-	-				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はBASF ジャパン株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量/使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	クレソキシムメチル分析結果 (ppm)				代謝物の分析結果 (ppm)							
					公的分析		社内分析		最高値		平均値		最高値		平均値	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値				
甘長 とうがらし (施設) (果実) 平 20 年度	水和剤 (44.2%) 4000 倍 300L/10a 散布	宮崎県病害虫防除・ 肥料検査センター (西都市) 品種：ジヤンガ甘党しとう	0	-	-	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-				
			2	1	-	-	1.3	1.3	-	-	-	-				
			2	3	-	-	0.9	0.9	-	-	-	-				
			2	7	-	-	0.5	0.5	-	-	-	-				
		宮崎県病害虫防除・ 肥料検査センター (新高町) 品種：甘党美人	0	-	-	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-				
			2	1	-	-	0.4	0.4	-	-	-	-				
			2	3	-	-	0.3	0.3	-	-	-	-				
			2	7	-	-	0.2	0.2	-	-	-	-				
食用タンポ ポ (施設) (茎葉) 平 17,19 年 度	水和剤 (44.2%) 3000 倍 200L/10a 散布	福岡県農業総合試験場 (志摩町) 品種：なし	0	-	<0.05	<0.05	-	-	-	-	-	-				
			2	7	4.74	4.68	-	-	-	-	-	-				
			2	14	1.13	1.00	-	-	-	-	-	-				
			2	21	0.72	0.67	-	-	-	-	-	-				
		福岡県農業総合試験場 (北野町) 品種：なし	0	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	-			
			2	7	22.1	20.8	-	-	-	-	-	-	-			
			2	14	2.2	2.0	-	-	-	-	-	-	-			
			2	21	0.2	0.2	-	-	-	-	-	-	-			
いら (施設) (花茎) 平 21,22 年 度	水和剤 (44.2%) 3000 倍 200L/10a 散布	高知県農業技術センター (廿枝) 品種：7447株-#	0	-	<0.05	<0.05	-	-	-	-	-	-				
			3	1	2.48	2.46	-	-	-	-	-	-				
			3	3	1.80	1.79	-	-	-	-	-	-				
			3	7	0.99	0.96	-	-	-	-	-	-				
		高知県農業技術センター (廿枝) 品種：7447株-#	0	-	<0.05	<0.05	-	-	-	-	-	-	-			
			3	1	3.67	3.66	-	-	-	-	-	-	-			
			3	3	3.07	3.06	-	-	-	-	-	-	-			
			3	7	2.01	2.00	-	-	-	-	-	-	-			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はBASF ジャパン株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数又は 使用量/使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	クレソキシムメチル分析結果 (ppm)				代謝物の分析結果 (ppm)					
					公的分析		社内分析		公的分析		社内分析			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値		
ディール (施設) (葉) 平 20 年度	水和剤 (44.2%) 3000 倍 200L/10a 散布	愛知県農業総合試験場 (下条東町) 品種：トヨシ種苗種子	0	-	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	
			2	3	-	4.9	4.9	-	-	-	-	-	-	
			2	7	-	2.1	1.9	-	-	-	-	-	-	-
			2	14	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-
		愛知県農業総合試験場 (当古町) 品種：藤田種苗種子	0	-	-	<0.1	<0.1	-	-	-	-	-	-	-
			2	3	-	2.6	2.4	-	-	-	-	-	-	-
2	7	-	2.1	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-		
2	14	-	1.2	1.2	-	-	-	-	-	-	-	-		
おおさきな (施設) (莖葉) 平 21 年度 平 22 年度	水和剤 (44.2%) 3000 倍 300L/10a 莖葉散布	新潟県農業総合研究所 砂丘地ほ場 (新発田市) 平 21 年度 品種：大崎系統	0	-	-	<0.01	<0.01	-	-	-	-	-	-	
			2	1	-	9.69	9.54	-	-	-	-	-	-	
			2	3	-	6.41	6.16	-	-	-	-	-	-	-
			2	7	-	6.52	6.44	-	-	-	-	-	-	-
		新潟県農業総合研究所 砂丘地ほ場 (新発田市) 平 22 年度 品種：大崎系統	0	-	-	<0.01	<0.01	-	-	-	-	-	-	-
			2	1	-	15.9	15.6	-	-	-	-	-	-	-
2	3	-	15.5	15.3	-	-	-	-	-	-	-	-		
2	7	-	10.1	9.92	-	-	-	-	-	-	-	-		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

2. 土壌残留

(1) 分析法の原理と操作概要

原理:

親化合物(クレソキシムメチル)と代謝物 に液液分配し、親化合物相はそのままカラムクロマトグラフィーにより精製後ガスクロマトグラフィー(FTD)で、代謝物相については、メチル化後、三弗化ホウ素メタノールで親化合物に変換してカラムクロマトグラフィーにより精製後、親化合物と同様にガスクロマトグラフィー(FTD)で定量する。

操作概要:

親化合物(クレソキシムメチル)と代謝物 の分配:

試料を 混液(2/8)で振盪抽出し、遠心分離後濾過する。濾液中の を留去後、蒸留水を加え、1N 水酸化ナトリウムで pH を調整する。分液ロートに移し、塩化ナトリウム及び を加えて振盪し液液分配を行う(層に親化合物、 層に代謝物)。

親化合物の分析:

上記のヘキサン層に 1N 塩酸、塩化ナトリウムを加えて振盪後、ヘキサン層を分取する。無水硫酸ナトリウムで脱水後濾過し、濾液を濃縮・乾固する。この乾固物をヘキサンで溶解し、予めヘキサンで洗浄した Sep Pak Silica に移し、ヘキサン及びジエチルエーテル/ヘキサン混液(2/98)を流下させ、この流出液は捨てる。次いでジエチルエーテル/ヘキサン混液(5/95)で溶出させ、溶出液を濃縮・乾固後、アセトンで溶解し、ガスクロマトグラフィー(FTD)により定量する。

検出限界: 0.02ppm

代謝物 の分析:

検出限界: 0.02ppm(親化合物相当量)

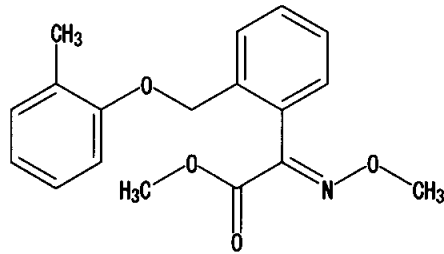
本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

(2) 分析対象の化合物

親化合物(クレソキシムメチル)

メチル=(E)-2-メトキシイミノ-2-[2-(o-トリルオキシメチル)フェニル]アセテート

methyl (E)-2-methoxyimino-2-[2-(o-tolylloxymethyl)phenyl]acetate



代謝物 ;

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

(3) 残留試験結果

① 圃場試験

推定半減期

試験年次	土壌(県名)	親化合物	親化合物+代謝物
平成 5 年	火山灰・埴壤土 (長野)	約 5 日	
	洪積・埴壤土 (和歌山)	1 日以内	
平成 6 年	火山灰・砂壤土 (群馬)	約 3 日	
	火山灰・軽埴土 (茨城)	約 17 日	

試験結果

分析機関: (株)

試験年度	試料調製及び採取場所	供試薬剤の濃度、量及び回数	処理回数	経過日数	分析値 (ppm)				合計値
					親化合物		代謝物*		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
平成 5 年	長野県 植物防疫協会 須坂研究所 (長野) (火山灰・埴壤土)	BAS 490 トライロフ* (50.0%**)	0	-	<0.02	<0.02			
			3	0	10.4	10.2			
			3	1	7.14	7.01			
			3	3	6.03	5.94			
			3	7	4.13	4.08			
			3	30	3.94	3.48			
			3	60	0.93	0.91			
			3	90	1.07	1.06			
			3	120	0.51	0.47			
	3	147	0.51	0.48					
	3	180	0.05	0.04					
	和歌山県 果樹園芸試験場 紀北分場 (和歌山) (洪積・埴壤土)	× 1000 400L/10a	0	-	<0.02	<0.02			
			3	0	2.20	2.16			
			3	1	0.65	0.64			
			3	3	0.18	0.16			
			3	7	0.17	0.14			
			3	30	0.04	0.04			
			3	60	<0.02	<0.02			
3			90	0.03	0.02				
3			120	0.03	0.03				
3	150	<0.02	<0.02						
3	180	<0.02	<0.02						
平成 6 年	群馬県 園芸試験場 (群馬) (火山灰・砂壤土)	BAS 490 トライロフ* (50.0%**)	0	-	<0.02	<0.02			
			3	0	0.33	0.31			
			3	1	0.16	0.15			
			3	3	0.16	0.16			
			3	7	0.12	0.12			
			3	30	0.02	0.02、 <0.02			
			3	60	<0.02	<0.02			
			3	90	<0.02	<0.02			
			0	-	<0.02	<0.02			
	3	0	0.27	0.26					
	3	1	0.24	0.21					
	3	3	0.21	0.20					
	3	7	0.20	0.19					
	3	31	0.05	0.05					
	3	59	0.06	0.06					
	3	90	<0.02	<0.02					

合計値は申請者の計算値による

* 代謝物は「親化合物相当量」として表示

** 中央値管理による値

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

② 容器内試験

推定半減期

土壌(県名)	親化合物	親化合物+代謝物
火山灰・堆壊土(長野)	1日以内	
洪積・堆壊土(和歌山)	1日以内	

試験結果

分析機関：(株)

試料調製及び採取場所	供試薬剤の濃度、量及び回数	処理回数	経過日数	分析値(ppm)				合計値
				親化合物		代謝物*		
				最高値	平均値	最高値	平均値	
長野県 植物防疫協会 (長野) (火山灰・堆壊土) 畑地土壌	純品 37.6 μg/20g (1.88ppm)	0	-	<0.02	<0.02			
		1	0	1.88	1.86			
		1	1	0.29	0.26			
		1	3	0.06	0.06			
		1	7	0.04	0.04			
		1	14	<0.02	<0.02			
		1	28	0.03	0.03			
		1	56	0.02	0.02			
和歌山県 果樹園芸試験場 紀北分場 (和歌山) (洪積・堆壊土) 畑地土壌	純品 37.6 μg/20g (1.88ppm)	0	-	<0.02	<0.02			
		1	0	1.70	1.70			
		1	1	0.10	0.10			
		1	3	0.05	0.05			
		1	7	0.03	0.03			
		1	14	0.02	0.02、 <0.02			
		1	28	0.02	0.02			
		1	56	0.02	0.02、 <0.02			
1	92	<0.02	<0.02					

合計値は申請者の計算値による

* 代謝物は「親化合物相当量」として表示

土壌は 25~27℃で保存

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

VI. 有用動植物等に及ぼす影響

1. 水産動植物に対する影響

[クレソキシムメチル原体]

No.	試験の種類・ 被験物質	供試 生物	1群 当りの 供試数	試験 方法	試験 水温 (°C)	LC ₅₀ 又はEC ₅₀ 値(ppm)有効成分値 〔()内は有効成分換算値〕				試験機関 (報告年)	頁
						1h	48h	72h	96h		
1 GLP	魚類急性毒性 原体()	コイ	10	止水式	22~ 23	>1.905 (1.791)	-	-	0.359 (0.337)	(1993)	56
2 GLP		ニジマス	10	止水式	12~ 13	>0.187 (0.176)	-	-	0.17 (0.16)	(1992)	58
3 GLP		ブル ギル	10	止水式	20~ 21	>1.272 (1.196)	-	-	0.719 (0.676)	(1993)	59
4 GLP	ジソコ類 急性遊泳阻害 原体()	材 ジソコ	20	止水式	20 ±1	-	0.186 (0.174)	-	-	(1992)	61
5 GLP	ジソコ類 急性遊泳阻害 原体()	材 ジソコ	20	流水式	20 ±1	-	0.32 a. i.	-	-	(1995)	62
6 GLP	藻類生長阻害 原体()	緑藻 (<i>Pseudokirchneriella subcapitata</i>)			22.3 ~ 25.3	ErC ₅₀ (0~72時間): 0.1753 a. i. ^{a)} NOEC(0~72時間): 0.0147 a. i. ^{a)}				(1995)	63

a) 平均実測濃度に基づく値

[ストロビーフロアブル (クレソキシムメチル水和剤 44.2%)]

No.	試験の種類・ 被験物質	供試 生物	1群 当りの 供試数	試験方 法	試験 水温 (°C)	LC ₅₀ 又はEC ₅₀ 値(ppm)有効成分値				試験機関 (報告年)	頁
						24h	48h	72h	96h		
7 GLP	魚類急性毒性 製剤(44.2%)	コイ	10	半 止水式	22 ±2	1.52	1.42	-	1.33	(1994)	64
8 GLP	魚類急性毒性 製剤(44.2%)	コイ		止水式	21~ 22	約 2.150	約 1.87	1.000~ 2.150	1.724	(1994)	65
9 GLP	ジソコ類急性 遊泳阻害 製剤(44.2%)	材 ジソコ	20	止水式	20 ±1	0.433	0.192	-	-	(1993)	66
10 GLP	藻類生長阻害 製剤(44.2%)	緑藻 (<i>Pseudokirchneriella subcapitata</i>)			23 ±1	ErC ₅₀ (0~72時間): 1.078 EbC ₅₀ (0~72時間): 0.222				(1993)	67

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

[ストロビードライフロアブル (クレソキシムメチル水和剤 50.0%)]

No.	試験の種類・ 被験物質	供試 生物	1群 当りの 供試数	試験 方法	試験 水温 (°C)	LG ₅₀ 又は EC ₅₀ 値 (ppm) 有効成分値				試験機関 (報告年)	頁
						24h	48h	72h	96h		
11 GLP	魚類急性毒性 製剤 (50.0%)	コイ	10	半 止水式	22 ±2	1.67	1.47	-	1.33	(1994)	68
12 GLP	魚類急性毒性 製剤 (50.0%)	コイ		止水式	21~ 23	3.468	2.735	約 2.150	2.21	(1994)	69
13 GLP	ミジンコ類急性 遊泳阻害 製剤 (50.0%)	材 ミジンコ	20	止水式	21	約 0.6	0.310	-	-	(1994)	70
14 GLP	藻類生長阻害 製剤 (50.0%)	緑藻 (<i>Pseudokirchneriella subcapitata</i>)								(1994)	71
		初期濃度 1x10 ⁴ 個/mL	止水式、 振盪培養法	21 ±1		ErC ₅₀ (0~72 時間) : 0.532		EbC ₅₀ (0~72 時間) : 0.071			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

原体を用いた水産動植物に対する影響試験

1) 魚類急性毒性試験

コイを用いた急性毒性試験

(資料 1)

試験機関:

[GLP 対応]

報告書作成年: 1993 年

被験物質: クレソキシムメチル原体 (純度)

供試生物: コイ (*Cyprinus carpio*) 一群各 10 尾, 体長: 5~8cm, 年齢: 約 6 ヶ月

方法: 暴露方式: 止水式

暴露期間: 96 時間

試験水量: 100L

試験容器: ステンレス鋼付ガラス製水槽 (80cm×35cm×46cm)

照明: 16 時間明期

給餌: 無給餌

溶存酸素濃度: 4.6~7.9 mg/L (若干暴気を行った)

試験水の pH: 8.1~8.6 (pH の調整は行わなかった。)

希釈水: 水道水を脱塩素し、活性炭ろ過したもの

試験水温: 22~23.0°C

結果:

試験濃度 (mg/L)	設定濃度		0.1、0.215、0.464、1.0、2.15、4.64
	実測濃度 ^{a)}	1 時間	0.0646、0.1028、0.2504、0.3136、1.058、1.905
		96 時間	0.1129、0.0404、0.0823、0.2472、0.3257、0.6458
		平均 ^{b)}	0.085、0.064、0.144、0.278、0.587、1.109
LC ₅₀ (mg/L)	1 時間 ^{c)}		>1.905 (1.791)
	96 時間 ^{d)}		0.247 (0.232) ~ 0.326 (0.306)
	96 時間 ^{e)}		0.359 (0.337) [0.309 (0.290) ~ 0.416 (0.391)]

a) 分析標準品として被験物質を使用

b) 1 時間および 96 時間における実測濃度の幾何平均

c) 1 時間での実測濃度に基づいた値

d) 96 時間での実測濃度に基づいた値

e) b) の値に基づいた値、moving average 法を使用

() 内は有効成分換算値

[] 内は 95% 信頼限界

各濃度区平均実測濃度の設定濃度に対する割合は、試験期間を通して 24~85% であった。したがって、LC₅₀ 値算出には平均実測濃度を用いた。

平均実測濃度に基づく LC₅₀ (96 時間) は 0.359 mg/L と算出された。

対照区では症状等は認められなかった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はBASF ジャパン株式会社にある。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

ニジマスを用いた急性毒性試験

(資料 2)

試験機関：

[GLP 対応]

報告書作成年： 1992 年

被験物質： クレソキシムメチル原体 (純度)

供試生物： ニジマス (*Oncorhynchus mykiss*) 一群各 10 尾, 年齢：約 6 ヶ月, 体長：6.0~7.6 cm, 体重：2.8~5.0 g

方 法： 暴露方式：止水式

暴露期間：96 時間

試験水量：100L

試験容器：ステンレス鋼ガラス製水槽 (80×35×46 cm)

照 明：16 時間明期

給 餌：無給餌

溶存酸素濃度：8.5~11.0 mg/L (暴気は実施しなかった)

試験水の pH：8.5~8.7

希釈水：水道水を活性炭濾過したもの

試験水温： 12~13°C

結 果：

試験濃度 (mg/L)	設定濃度		0.0464、0.0681、0.100、0.147、0.215、0.316、 0.464、0.681、1.0
	実測濃度 ^{a)}	1 時間	0.0029、0.0064、0.0108、0.0181、0.0378、0.0467、 0.0924、0.1509、0.1867
		96 時間	0.0160、0.0180、0.0268、0.0254、0.0400、0.0650、 0.1051、0.1508、0.1868
		平均 ^{b)}	0.007、0.011、0.017、0.021、0.039、0.055、0.099、 0.151、0.187
LC ₅₀ (mg/L)	1 時間 ^{c)}	>0.187 (0.176)	
	96 時間 ^{d)}	0.151 (0.142) ~ 0.187 (0.176)	
	96 時間 ^{e)}	0.17 (0.16)	

a) 分析標準品として被験物質を使用

b) 1 時間および 96 時間における実測濃度の幾何平均

c) 1 時間での実測濃度に基づいた値

d) 96 時間での実測濃度に基づいた値

e) b) に基づいた値、0.151 および 0.187 mg/L の幾何平均として算出

() 内は有効成分換算値

各濃度区実測濃度の設定濃度に対する割合は、試験期間を通して 15~22%であった。したがって、LC₅₀ 値算出には実測濃度を用いた。

平均実測濃度に基づく LC₅₀ (96 時間) は NOEC である 0.151 及び LOEC である 0.187 mg/L の幾何平均値、0.17 mg/L とした。

対照区では症状等は認められなかった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

ブルーギルを用いた急性毒性試験

(資料 3)

試験機関：

[GLP 対応]

報告書作成年： 1993 年

被験物質： クレソキシムメチル原体 (純度)

供試生物： ブルーギル (*Lepomis macrochirus*) 一群各 10 尾, 年齢：約 6~10 ヶ月, 体長：4.9~6.0 cm, 体重：1.2~2.7 g

方 法： 暴露方式：止水式

暴露期間：96 時間

試験水量：100L

試験容器：ステンレス鋼枠付きガラス製水槽 (80×35×46 cm)

照 明：16 時間明期

給 餌：無給餌

溶存酸素濃度：5.0~9.1 mg/L (若干暴気を実施した)

試験水の pH：8.2~8.8

希釈水：塩素化されていない Frankenthal 市水を活性炭濾過したもの

試験水温： 20~21°C

結 果：

試験濃度 (mg/L)	設定濃度		0.316、0.464、0.681、1.000、1.470、2.150、3.160、 4.640
	実測濃度 ^{a)}	1 時間	0.1845、0.2513、0.2886、0.4965、0.5372、0.9571、 1.256、1.272
		96 時間	0.1040、0.2253、0.1918、0.2918、0.3489、0.4978、 0.6209、0.6332
		平均 ^{b)}	0.1385、0.2379、0.2353、0.3806、0.4329、0.6902、 0.8831、0.8975
LC ₅₀ (mg/L)	1 時間 ^{c)}	>1.272 (1.196)	
	96 時間 ^{d)}	約0.621 (0.584)	
	96 時間 ^{e)}	0.719 (0.676) [0.648 (0.609) ~ 0.797 (0.749)]	

a) 分析標準品として被験物質を使用

b) 1 時間および 96 時間における実測濃度の幾何平均

c) 1 時間での実測濃度に基づいた値

d) 96 時間での実測濃度に基づいた値

e) b) に基づいた値、moving average 法を使用

() 内は有効成分換算値、[] 内は 95% 信頼限界

各濃度区平均実測濃度の設定濃度に対する割合は、試験期間を通して 19~51% であった。したがって、LC₅₀ 値算出には実測濃度を用いた。

平均実測濃度に基づく LC₅₀ (96 時間) は

0.719 mg/L と算出された。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

対照区では症状等は認められなかった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

2) ミジンコ類急性遊泳阻害試験

(資料 4)

オオミジンコを用いた急性遊泳阻害試験

試験機関：

[GLP 対応]

報告書作成年： 1992 年

被験物質： クレソキシムメチル原体（純度 ）

供試生物： オオミジンコ (*Daphnia magna*) 24 時間未満齢、一群各 20 頭、

方 法： 暴露方式： 止水式
暴露期間： 48 時間
試験水量： 50L
試験容器： ガラス試験管
照 明： 16 時間明期
給 餌： 無給餌
溶存酸素濃度： 8.0~9.0 mg/L
試験水の pH： 7.0~7.8
希釈水： M4

試験水温： 20±1°C

結 果：

試験濃度 (mg/L)	設定濃度		0.004、0.009、0.017、0.034、0.069、 0.137、0.274、0.548、1.096
	実測濃度 ^{a)}	0 時間	0.1297、0.4955
EC ₅₀ (mg/L) ^{b)}			48 時間
		3 時間	0.940(0.881) [0.776~1.138]
		24 時間	0.428(0.401) [0.346~0.529]
		48 時間	0.186(0.174) [0.161~0.216]

a) 分析標準品として被験物質を使用し、0.137 および 0.548 mg/L のみ測定

b) Moving average 法を用いて算出

[]内は 95%信頼限界

()内は有効成分換算値

各濃度区の測定濃度の設定濃度に対する割合は、試験開始時には 90.4~94.7%、
48 時間後に 87.3%から 93.6%であり、EC₅₀ 値算出には設定濃度を用いた。

EC₅₀(48 時間)は 0.186

mg/L と算出された。

(注) 本試験では 2 濃度でのみ濃度測定を実施した。最大および最小試験濃度ではない 2 濃度
のみでの濃度測定は JMAFF ガイドラインの要求を逸脱している。しかし、物化性状から本被験
物質は本試験期間中安定に濃度維持されることが予測され、また、実際 2 濃度での濃度分析で
もそれが証明されている。さらに EC₅₀(48 時間)が 0.1867 mg/L と測定された 2 濃度の間である
ため、設定濃度に基づいて算出した本試験結果は妥当性があるものと考えらる。

オオミジンコを用いた急性遊泳阻害試験

(資料 5)

試験機関：

[GLP 対応]

報告書作成年： 1995 年

被験物質： クレソキシムメチル原体（純度 ）

供試生物： オオミジンコ (*Daphnia magna*) 24 時間未満齢、一群各 20 頭、

方 法： 暴露方式：流水式
暴露期間：48 時間
試験容器：300 mL ガラスビーカー
照 明：16 時間明期
給 餌：無給餌
溶存酸素濃度：8.1~8.9 mg/L
試験水の pH：8.3~8.5
希釈水：フィルターろ過し暴気した井戸水

試験水温： 20±1°C

結 果：

試験濃度 (a. i. mg/L)	設定濃度	0.058, 0.097, 0.162, 0.270, 0.450
	平均実測濃度 ^{a)}	0.059, 0.095, 0.160, 0.260, 0.400
	平均実測濃度 ^{b)}	0.059, 0.095, 0.159, 0.254, 0.397
EC ₅₀ (a. i. mg/L) ^{b)}	24 時間 ^{c)}	0.350 [0.260~0.440]
	48 時間 ^{c)}	0.332 [0.260~0.400]
	48 時間 ^{d)}	0.32

a) 分析標準品として被験物質を使用、算術平均

b) 分析標準品として被験物質を使用、幾何平均

c) a)に基づき Binominal 法で算出

d) b)に基づいた値。0.254 および 0.297 mg/L の幾何平均とした。

[]内は 95%信頼限界

各濃度区の平均実測濃度の設定濃度に対する割合は、88%~102%であった。EC₅₀ 値算出には平均実測濃度を用いた。

平均実測濃度に基づ

く EC₅₀ (48 時間) は、遊泳阻害に影響を与えない最高濃度 0.254 mg/L および本試験最高濃度 0.397 mg/L の幾何平均値、0.32 mg/L とした。

対照区では症状等は認められなかった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

3) 藻類生長阻害試験

(資料 6)

試験機関:

[GLP 対応]

報告書作成年: 1995 年

被験物質: クレソキシムメチル原体 (純度)

供試生物: 緑藻 (*Pseudokirchneriella subcapitata* (旧学名 *Selenastrum capricornutum*))

方法: 暴露方式: 止水式、振とう培養 (100rpm)

暴露期間: 120 時間

試験水量: 100 mL

試験容器: 250 mL 三角フラスコ

照明: 連続、4310~4840 Lux

初期細胞濃度: 3×10^3 細胞/mL

試験水の pH: 7.4~8.6

培養温度: 22.3~25.3°C

結果:

試験濃度 (mg a. i. /L)	設定濃度	0.0161、0.0323、0.0645、0.129、0.258
	初期実測濃度	0.0122、0.0250、0.0585、0.144、0.289
	平均実測濃度 ^{a)}	0.0147、0.0241、0.0489、0.1302、0.2580
E_yC_{50} (mg a. i. /L) ^{b)}	0~120 時間	0.0594 [0.0569~0.0619]
E_rC_{50} (mg a. i. /L) ^{c)}	0~72 時間	0.1753 [0.1460~0.2194]
NOEC (mg a. i. /L) ^{b)}	0~120 時間	0.0122
NOEC (mg a. i. /L) ^{c)}	0~72 時間	0.0147

a) 0 と 120 時間の実測濃度の幾何平均

b) 初期実測濃度を用い、生物量に基づいて算出

c) 平均実測濃度を用いて probit 法により算出

d) 平均実測濃度を用いて Dunnet 法により算出

[]内は 95%信頼限界

各濃度区における測定濃度の設定濃度に対する割合は、74.61%~100.9%であった。

平均実測濃度に基づく

0~72 時間の E_rC_{50} は 0.1753 mg a. i. /L、NOEC は 0.0147 mg a. i. /L であった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

製剤を用いた水産動植物に対する影響試験

1) 魚類急性毒性試験

コイを用いた急性毒性試験

(資料 7)

試験機関 :

[GLP 対応]

報告書作成年 : 1994 年

被験物質 : ストロビーフロアブル (44.2%)

供試生物 : コイ (*Cyprinus carpio*) 一群各 10 尾, 体長 : 平均 5.5cm, 体重 : 平均 4.9g

方 法 : 暴露方式 : 半止水式 (48 時間後に全量換水)

暴露期間 : 96 時間

試験水量 : 50L

試験容器 : 50L 角形ガラス製水槽

照 明 : 16 時間明期

給 餌 : 無給餌

溶存酸素濃度 : 2.5~8.5 mg/L

試験水の pH : 6.9~7.9 (pH の調整は行わなかった。)

希釈水 : 活性炭処理により残留塩素を除去した水道水

試験水温 : 22±2°C

結 果 :

試験濃度 (mg/L)	設定濃度	0.70、1.0、1.25、1.75、2.5
LC ₅₀ (mg/L) ^{a)}	24 時間	1.52 (1.41~1.63)
	48 時間	1.42 (1.34~1.51)
	96 時間	1.33 (1.25~1.42)

数値は製剤濃度として示した

a) Van der Weerden 法を用いて算出した

LC₅₀ (96 時間) は 1.33 mg/L であった。

対照区では症状等は認められなかった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

コイを用いた急性毒性試験

(資料 8)

試験機関：

[GLP 対応]

報告書作成年：1994 年

被験物質： ストロビーフロアブル (44.2%)

供試生物： コイ (*Cyprinus carpio*) 一群各 10 尾, 体長：平均 4.4~5.9 cm, 体重：平均 1.6~4.0 g

方 法： 暴露方式：止水式

暴露期間：96 時間

試験容器：50L 容角形ガラス製水槽

照 明：16 時間明期

給 餌：無給餌

溶存酸素濃度：7.8~8.4 mg/L (飽和溶存酸素濃度の 60%以上を保った。)

試験水の pH：8.3~8.5 (pH の調整は行わなかった。)

希釈水：塩素化されていない Frankenthal 市水を活性炭濾過したもの

試験水温：21~22°C

結 果：

試験濃度 (mg/L)	設定濃度		0.464、1.000、2.150、4.64、10
	実測濃度 (mg/L)	0 時間	0.492、1.003、2.139、4.435、10.346
			96 時間 ^{a)}
LC ₅₀ (mg/L) ^{b)}		1 時間 ^{c)}	6.748 (4.377~16.134)
		4 時間	約4.640
		24 時間	約2.150
		48 時間	約1.87
		72 時間	1.000~2.150
		96 時間 ^{c)}	1.724 (1.382~2.158)

数値は製剤濃度として示した

a) 10 mg/L に関しては測定しなかった

b) 設定濃度に基づいた値

c) probit 法を用いた

LC₅₀(96 時間)は 1.724 mg/L と算出された。

対照区では症状等は認められなかった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

2) ミジンコ類急性遊泳阻害試験

(資料 9)

試験機関：

[GLP 対応]

報告書作成年：1993 年

被験物質： ストロビーフロアブル(44.2%)

供試生物： オオミジンコ (*Daphnia magna*) 生後 24 時間未満齢， 一群各 20 頭

方法： 暴露方式： 止水式

暴露期間： 48 時間

試験水量： 20 mL

試験容器： 30 mL ガラス製試験管

照 明： 16 時間明期

給 餌： 無給餌

溶存酸素濃度： 9.0~9.1 mg/L

試験水の pH： 8.01~8.34 (pH の調整は行わなかった。)

希釈水： M7

試験水温： 20±1°C

結 果：

試験濃度 (mg/L)		0.05、0.1、0.2、0.4、0.6、0.8、1.0
実測濃度 ^{a)} (mg/L)	0 時間	0.4352、1.095
	48 時間	0.3882、1.041
EC ₅₀ (mg/L) ^{b)}	24 時間	0.433
	48 時間	0.192 (0.16~0.23)

数値は製剤濃度として示した

a) 0.4 および 1.0 mg/L のみ測定

b) 設定濃度に基づき probit 法を用いて算出した

EC₅₀(48 時間)は 0.192 mg/L と算出された。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

3) 藻類生長阻害試験

(資料 10)

試験機関 :

[GLP 対応]

報告書作成年 : 1993 年

被験物質 : ストロビーフロアブル (44.2%)

供試生物 : 緑藻 (*Pseudokirchneriella subcapitata*)

方法 : 暴露方式 : 止水式、振とう培養 (125rpm)

暴露期間 : 72 時間

試験水量 : 60 mL

試験容器 : 100 mL 容ディンプル付三角フラスコ

照明 : 連続、8000 Lux

初期細胞濃度 : 3×10^4 細胞/mL

試験水の pH : 7.90~8.13

培養温度 : $23 \pm 1^\circ\text{C}$

結果 :

設定濃度 (mg/L)		0.01、0.03、0.10、0.30、1.00、3.00
実測濃度 ^{a)}	0 時間	0.3269、3.173
	72 時間	0.3462、3.288
ErC ₅₀ (mg/L) ^{b)}	0~72 時間	1.078 [0.839~1.439]
EbC ₅₀ (mg/L) ^{b)}	0~72 時間	0.222 [0.183~0.266]

数値は全て製剤濃度として示した。

[]内は 95%信頼限界

a) 0.30 および 3.00 mg/L のみ測定した

b) probit 分析法を用いて算出した

ErC₅₀(0~72 時間)は 1.078 mg/L と算出された。

EbC₅₀(0~72 時間)は 0.222 mg/L と算出された。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

1) 魚類急性毒性試験

コイを用いた急性毒性試験

(資料 11)

試験機関：

[GLP 対応]

報告書作成年：1994 年

被験物質： ストロビードライフロアブル (50.0%)

供試生物： コイ (*Cyprinus carpio*) 一群各 10 尾, 体長：平均 5.5cm, 体重：平均 4.9g

方 法： 暴露方式：半止水式 (48 時間後に全量換水)

暴露期間：96 時間

試験水量：50L

試験容器：50L ガラス製水槽

照 明：16 時間明期

給 餌：無給餌

溶存酸素濃度：2.2~8.4 mg/L

試験水の pH：6.9~7.9 (pH の調整は行わなかった。)

希釈水：活性炭処理により残留塩素を除去した水道水

試験水温：22±2°C

結 果：

試験濃度 (mg/L)	設定濃度	0.70、1.0、1.25、1.75、2.5
LC ₅₀ (mg/L) ^{a)}	24 時間	1.67 (1.55~1.80)
	48 時間	1.47 (1.37~1.57)
	96 時間	1.33 (1.25~1.42)

数値は製剤濃度として示した

a) Van der Weerden 法を用いて算出した

LC₅₀(96 時間)は 1.33 mg/L と算出された。

対照区では症状等は認められなかった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

コイを用いた急性毒性試験

(資料 12)

試験機関：

[GLP 対応]

報告書作成年：1994 年

被験物質： ストロビードライフロアブル (50.0%)

供試生物： コイ (*Cyprinus carpio*) 一群各 10 尾, 体長：平均 4.4~5.9 cm, 体重：平均 1.6~4.0 g

方 法： 暴露方式：止水式

暴露期間：96 時間

試験水量：100L

試験容器：ステンレス鋼ガラス製水槽 (80cm×35cm×46cm)

照 明：16 時間明期

給 餌：無給餌

溶存酸素濃度：7.6~8.4 mg/L (飽和溶存酸素濃度の 60%以上を保った。)

試験水の pH：8.3~8.6 (pH の調整は行わなかった。)

希釈水：塩素化されていない Frankenthal 市水を活性炭濾過したもの

試験水温：21~23°C

結 果：

試験濃度 (mg/L)	設定濃度		0.215、0.464、1.0、2.15、4.64、10
	実測濃度 (mg/L)	0 時間	0.256、0.472、0.960、1.951、3.841、8.499
		96 時間	0.225、0.468、0.966、1.946、3.626、7.204
LC ₅₀ (mg/L) ^{a)}	1 時間	>10.000	
	4 時間	>10.000	
	24 時間 ^{b)}	3.468 (2.278~5.393)	
	48 時間 ^{b)}	2.735 (1.946~3.832)	
	72 時間	約2.150	
	96 時間 ^{b)}	2.21 (2.15~2.27)	

数値は製剤濃度として示した

a) 設定濃度に基づいた値

b) probit 法を用いた

LC₅₀ (96 時間) は 2.21 mg/L と算出

された。

対照区では症状等は認められなかった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

2) ミジンコ類急性遊泳阻害試験

(資料 13)

試験機関：

[GLP 対応]

報告書作成年：1994 年

被験物質： ストロビードライフロアブル (50.0%)

供試生物： オオミジンコ (*Daphnia magna*) 生後 24 時間未満齢， 一群各 20 頭

方法： 暴露方式： 止水式
暴露期間： 48 時間
試験水量： 20 mL
試験容器： 30 mL ガラス製試験管
照 明： 16 時間明期、900~1000 Lux
給 餌： 無給餌
溶存酸素濃度： 8.1~8.6 mg/L
試験水の pH： 8.04~8.15 (pH の調整は行わなかった。)
希釈水： M4

試験水温： 21°C

結 果：

試験濃度 (mg/L)		0.01、0.025、0.05、0.075、0.1、 0.25、0.5、0.75
実測濃度 ^{a)} (mg/L)	0 時間	0.073、0.442、0.662
	48 時間	0.022、0.071、0.133
EC ₅₀ (mg/L) ^{b)}	24 時間	約 0.6 (0.5~0.75)
	48 時間	0.310 (0.207~0.465)

数値は製剤濃度として示した

a) 0.1、0.5 および 0.75 mg/L のみ測定

b) 設定濃度に基づき probit 法で算出した

EC₅₀ (48 時間) は

0.310 mg/L と算出された。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

3) 藻類生長阻害試験

(資料 14)

試験機関 :

[GLP 対応]

報告書作成年 : 1994 年

被験物質 : ストロビードライフロアブル (50.0%)

供試生物 : 緑藻 (*Pseudokirchneriella subcapitata*)

方法 : 暴露方式 : 止水式、振とう培養 (125rpm)

暴露期間 : 72 時間

試験水量 : 60 mL

試験容器 : 100 mL 容ディンプル付三角フラスコ

照明 : 連続、8000 Lux

初期細胞濃度 : 1×10^4 細胞/mL

試験水の pH : 7.92~8.13

培養温度 : $21 \pm 1^\circ\text{C}$

結果 :

設定濃度 (mg/L)		0.003、0.01、0.03、0.1、0.3、1.0、3.0
実測濃度 ^{a)}	0 時間	0.062、2.88
	72 時間	0.031、0.844
ErC ₅₀ (mg/L) ^{b)}	0~72 時間	0.532 [0.405~0.714]
EbC ₅₀ (mg/L) ^{b)}	0~72 時間	0.071 [0.059~0.083]

数値は全て製剤濃度として示した。

[]内は 95%信頼限界

c) 0.1 および 3.0 mg/L のみ測定した

d) 設定濃度に基づき probit 分析法を用いて算出した

ErC₅₀ (0~72 時間) は 0.532 mg/L と算出された。

EbC₅₀ (0~72 時間) は 0.071 mg/L と算出された。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

2. 水産動植物以外の有用生物に対する影響

2-1. 蚕

No.	供試生物	1 試験区 当りの 供試数	供試薬 剂	試験方法	試験結果	試験機関 (報告年)
1	蚕(4 齢) 錦秋×鐘和 (春蚕期・晚 秋蚕期)	50 頭 (2 連制)	ト`ライ 7077`# 50.0%*	残毒性 1500 倍液(100L/10a 相当量) 処理桑葉給餌	影響は認められなかった。 安全基準日数：3 日	(1994)
2	蚕(4 齢) 春嶺×鐘月 (春蚕期) 錦秋×鐘和 (晚秋蚕期)	50 頭 (2 連制)	ト`ライ 7077`# 50.0%*	残毒性 1500 倍液(120L/10a 相当量) 処理桑葉給餌	影響は認められなかった。 安全基準日数：0 日	(1994)
3	蚕(4 齢) 春嶺×鐘月 (春蚕期) 錦秋×鐘和 (晚秋蚕期)	50 頭 (2 連制)	ト`ライ 7077`# 50.0%*	残毒性 1500 倍液(120L/10a 相当量) 処理桑葉給餌	影響は認められなかった。 安全基準日数：0 日	(1994)
4	蚕(4 齢) 春月×宝鐘 (春蚕期) 錦秋×鐘和 (晚秋蚕期)	50 頭 (2 連制)	7077`# 44.2%*	残毒性 2000 倍液(100L/10a 相当量) 処理桑葉給餌	影響は認められなかった。 安全基準日数：0 日	(1994)
5	蚕(4 齢) 春嶺×鐘月 (春蚕期) 錦秋×鐘和 (晚秋蚕期)	50 頭 (2 連制)	7077`# 44.2%*	残毒性 2000 倍液(100L/10a 相当量) 処理桑葉給餌	影響は認められなかった。 安全基準日数：0 日	(1994)
6	蚕(4 齢) 錦秋×鐘和 (夏蚕期・晚 秋蚕期)	50 頭 (2 連制)	7077`# 44.2%*	残毒性 2000 倍液(120L/10a 相当量) 処理桑葉給餌	影響は認められなかった。 安全基準日数：1 日	(1994)
7	蚕(4 齢) 朝日×東海 (夏蚕期)	50 頭 (2 連制)	7077`# 44.2%*	残毒性 16 倍液(16L/10a 相当量)処 理桑葉給餌	影響は認められなかった。 安全基準日数：1 日未満	(2004)

* 中央値管理による表示。

2-2. ミツバチ

No.	供試生物	1 試験区 当りの 供試数	供試薬 剤	試験方法	試験結果	試験機関 (報告年)
1 GLP	セイヨウミツバチ (<i>Apis mellifera</i> L)	10 頭 (3 連制)	原体	経口毒性 投与液 0.2mL 単回投与 (20 μ L/bee) 接触毒性 7 β -ヒトシキ溶液 1.0 μ L 腹部滴下 試験濃度: 20、15、10、5、2.5 μ g/bee	経口毒性 LD ₅₀ : 14.0 μ g/bee 接触毒性 LD ₅₀ : >20 μ g/bee (24 及び 48 時間後)	(/1992)
2 GLP	セイヨウミツバチ (<i>Apis mellifera</i> L)	10 頭 (2 連制)	ドライ 7077 μ L 50.0%*	吸入毒性 600g/300L/ha 相当液の蒸気に暴 露 直接的接触毒性 600g/300L/ha 相当液を 1mL/ケジ 暴露 間接的接触毒性 600g/300L/ha 相当液を処理した 濾紙をケジに入れ放虫 経口毒性 試験濃度 0.5、0.25、0.125% の砂糖水溶液 (約 0.2mL/10 頭) を最高 3 時間摂取させた	吸入毒性 死虫率: 7% (72 時間後) 直接的/間接的接触毒性 死虫率: 0% (72 時間後) 経口毒性 LD ₅₀ : >98 μ g/bee (24 時間後)	(/1993)
3	セイヨウミツバチ (<i>Apis mellifera</i> L) (20 日齢以上)	100 頭 (3 反復)	ドライ 7077 μ L 50.0%*	殺虫性 7 濃度 (50~4000 倍) を 5 秒間噴霧 器で散布	死亡率: 0% (72 時間 後) 殺虫性、群態への影響 なし。 帰巣能力への影響並びに 忌避行動等も認められな かった。	(1994)
		5 枚群/ 約 8000 頭 (5 反復)		群態への影響 2000 倍液を 500cc/巣箱に散布		
		100 頭 (3 反復)		帰巣能力に及ぼす影響 巣箱から離れた地点で 2000 倍 液を 5 秒間散布し、放虫		
		10 枚群/ 約 20000 頭 (3 反復)		訪花試験 2000 倍液 (100L/10a) をレンゲ園 場に散布し放花個体数を計測		
4 GLP	セイヨウミツバチ (<i>Apis mellifera</i> L)	10 頭 (3 連制) (2 反復)	7077 μ L 44.2%*	吸入毒性 0.6L/200L/ha 相当液の蒸気に暴 露 間接的接触 0.6L/200L/ha 相当液を処理した 濾紙をケジに入れ放虫 直接的接触毒性 0.6L/200L/ha 相当液を噴霧器で 散布 経口毒性 0.5%濃度のシロップ懸濁液を最 高 3 時間摂取させた	いずれの試験においても 影響なし。 LD ₅₀ : >100 μ g/bee (24 時間後)	(/1993)
5	セイヨウミツバチ (<i>Apis mellifera</i> L) (20 日齢以上)	100 頭 (3 連制)	7077 μ L 44.2%*	殺虫性 7 濃度 (50~4000 倍) を 5 秒間噴霧 器で散布	死亡率: 0% (72 時間後) 殺虫性、群態への影響 なし。 帰巣能力への影響並びに 忌避行動等も認められな かった。	(1994)
		5 枚群/ 約 8000 頭 (5 連制)		群態への影響 2000 倍液を 500cc/巣箱に散布		
		100 頭 (3 反復)		帰巣能力に及ぼす影響 巣箱から離れた地点で 2000 倍 液を 5 秒間散布し、放虫		
		10 枚群/ 約 20000 頭 (3 反復)		訪花試験 2000 倍液 (100L/10a) をレンゲ園 場に散布し放花個体数を計測		

2-3. 天敵

No.	供試生物	1 試験区 当りの 供試数	供試薬剤	試験方法	試験結果	試験機関 (報告年)
1	タイリクヒメハカメムシ (2 齢幼虫)	10 頭 (3 反復)	原体	400ppm 濃度処理 ガラス円形板 2 μ L/cm ² 散 布し風乾後放飼	死亡率 : 3.3% (24 時間後) 16.7% (48 時間後)	(2004)
2	チカアリガニ (ふ化後 1~2 日齢第 1 若虫)	8 頭 (3 反復)		400ppm 濃度処理 リーフディスクに放飼後 2 μ L/cm ² 散布	死亡率 : 16.7% (24, 48 時間後)	(2003)
3	コレマンアブラ ハチ (雌成虫)	10 頭 (3 反復)		400ppm 濃度処理 ターンテーブル上ガラス板に 2 μ L/cm ² 散布し風乾後放飼	死亡率 : 3.3% (48 時間後)	
4	ヒメサカゲロウ (2~3 日齢幼 虫)	30 頭 (3 反復)	7077 μ L 41.5%	311ppm 濃度処理 ガラス板に 4 μ L/cm ² 散布 し風乾後放飼	死亡率 : 0% (35 日後)	(1993)
5	ナホシントウ (3~19 日齢成 虫)	10 頭 (5 反復)	7077 μ L 48.37%	726ppm 濃度処理 ガラス板に 2 μ L/cm ² 散布 し風乾後放飼	死亡率 : 0% (14 日後)	(1993)
6	ナホシントウ (3~4 日齢幼 虫)	25 頭 (4 反復)	7077 μ L 48.37%	484ppm 濃度処理 ガラス板に 3 μ L/cm ² 散布 し風乾後放飼	死亡率 : 9.7% (35 日後) 繁殖性 : 影響なし (42 日後)	(1993)
7	カアリガニ (<i>Typhlodromus pyri</i>)	葉 50 枚 (3 連制)	7077 μ L 48.37%	6667 倍液 (200L/10a 相当 量) を 7~10 日間隔で 8 回処理したりんご葉の生 息数を調査	生息虫数 : 影響なし (4 週間後)	(1994)

2-4. 鳥類

No.	試験の種類・ 被験物質	供試生物	1 群 当りの 供試数	投与 方法	投 与 量	LD ₅₀ 又は LC ₅₀ 及び無影響量	観察された 影響等	試験機関 (報告年)
1	急性経口毒性 原体 ()	アメリカスラ (6 月齢)	雌雄 各 5 羽	強制 経口	464、681、 1000、1470、 2150 mg/kg	LD ₅₀ : >2150mg/kg	死亡あるいは 中毒症状は認 められず	(/1993)
2	急性経口毒性 原体 ()	アメリカスラ (ヒナ 13 日齢)	10 羽	飼料 混入	313、625、 1250、2500、 5000 ppm	LC ₅₀ : >5000ppm		
3	急性経口毒性 原体 ()	マカモ (ヒナ 8 日齢)	10 羽	飼料 混入	625、1250、 2500、5000 ppm			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

2-5. その他

No.	供試生物	1 試験区 当りの 供試数	供試薬剤	試験方法	試験結果	試験機関 (報告年)
1	マメコバチ (成虫)	10 頭 (3 連制)	ドライ 7077 [®] Ⅱ 50.0%*	直接接触 1500 倍 20mL 散布 間接接触 1500 倍液に浸漬したり んごの葉を風乾後供試 生物を放飼	いずれの処理方法においても影 響は認められなかった。	(1994)
		30 頭 (1 区制)		直接接触 1500 倍 20mL 散布	影響は認められなかった。	(1994)
2	ミミズ (1 年未満 成体)	10 個体 (4 連制)	原体	試験濃度 93.7、234.5、 468.5、702.75、 937.0 mg/kg/乾土で混和 した人工培土 750g に放 飼	最大無作用量：937 mg/kg	(/1992)
3			ドライ 7077 [®] Ⅱ 50.0%*	試験濃度 100、250、 500、750、1000 mg/kg/ 乾土で混和した人工培土 750g に放飼	高濃度で死亡あるいは生育に対 する影響が認められた。 LC ₅₀ ：644mg/kg 最大無作用量：500 mg/kg (14 日間)	(/1994)
4			7077 [®] Ⅱ 44.2%*	試験濃度 30、100、 200、400、600 mg/kg/乾 土で混和した人工培土 750g に放飼	高濃度で死亡あるいは生育に対 する影響が認められた。 LC ₅₀ ：308mg/kg 最大無作用量：100 mg/kg (14 日間)	
5			490M1 純品	試験濃度 1000 mg/kg/乾 土で混和した人工培土 750g に放飼	死亡及び生育に対する影響が認 められなかった。	

* 中央値管理による表示。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

Ⅶ. 使用時安全上の注意、解毒法等

1. 使用時安全上の注意事項

a) ストロビードライフロアブル(クレソキシムメチル 50.0%)

- (1) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (2) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

b) ストロビーフロアブル(クレソキシムメチル 44.2%)

- (1) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (2) 使用の際は不浸透性手袋などを着用すること。

c) ターフトップDF(クレソキシムメチル 40.0%)

- (1) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (2) 公園等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

2. 解毒法及び治療法

対症療法を行なう。

3. 製造時、使用時における事故例

現在まで、試験期間中、製造時あるいは使用時における事故例はない。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

Ⅷ. 毒性 〈毒性試験一覧表〉

〈試験機関の略称〉

1. クレソキシムメチル原体を用いた試験成績

資料 No.	試験の種類及び期間	供試生物	1群当り供試数	投与方法	投与量 (mg/kg)	LD ₅₀ 値または最大無作用量 (mg/kg)	試験機関 (報告年)	記載頁
1 (GLP)	急性毒性 14 日間観察	ラット	♂♀各 5	経口	♂♀ 5000	♂♀ >5000	(1993)	84
2 (GLP)	急性毒性 14 日間観察	マウス	♂♀各 5	経口	♂♀ 5000	♂♀ >5000	(1994)	85
3 (GLP)	急性毒性 14 日間観察	ラット	♂♀各 5	経皮	♂♀ 2000	♂♀ >2000	(1993)	86
4 (GLP)	急性毒性 14 日間観察	ラット	♂♀各 5	吸入 鼻部 (ダスト)	♂♀ 2.04、5.6 mg/L	♂♀ >5.6 mg/L	(1992)	87
52	急性神経毒性 14 日間観察	ラット	♂♀各 10	経口	♂♀ 0, 500, 1000, 2000	♂♀ ; 2000 神経毒性なし	(1996)	89
	急性遅発性神経毒性	成績提出の除外						92
16 (GLP)	皮膚刺激性 72 時間観察	ウサギ	♂2 ♀4	皮膚貼付	♂♀ 0.5 g	極軽微な刺激性 (24 時間後には消失)	(1992)	93
13 (GLP)	眼粘膜刺激性 72 時間観察	ウサギ	♂2 ♀4	結膜囊	♂♀ 0.1 mL/眼 (約 39 mg/眼)	極軽微な刺激性 (72 時間後には消失)	(1992)	95
19 (GLP)	皮膚感作性 Maximisation 法 48 時間観察	モルモット	♀20	皮内感作: 5%懸濁液 経皮感作: 50%懸濁液 誘 発: 50%懸濁液		陰性	(1993)	98
22 (GLP)	亜急性毒性 3 ヶ月	ラット	♂♀各 10	飼料 混入	0, 500, 2000, 8000, 16000 (ppm) ----- ♂: 36, 146, 577, 1170 ♀: 43, 172, 672, 1374	♂: 146 (2000 ppm) ♀: 43 (500 ppm)	(1994)	101
23 (GLP)	亜急性毒性 3 ヶ月	マウス	♂♀各 10	飼料 混入	0, 250, 1000, 4000, 8000 (ppm) ----- ♂: 57, 230, 909, 1937 ♀: 80, 326, 1326, 2583	♂: 230 (1000 ppm) ♀: 2583 (8000 ppm)	(1994)	106

網掛け資料番号は残留農薬安全性評価委員会で評価されていない資料

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

資料 No.	試験の種類及び期間	供試生物	1群当り供試数	投与方法	投与量 (mg/kg)	LD50 値または最大無作用量 (mg/kg)	試験機関 (報告年)	記載頁
24 (GLP)	亜急性毒性 3 ヶ月	豚	♂♀各 6	飼料混入	0, 1000, 5000, 25000 (ppm) ♂: 30, 150, 776 ♀: 34, 168, 846	♂: 150 (5000 ppm) ♀: 168 (5000 ppm)	(1994)	109
46 (GLP)	反復経皮投与 21 日間	ラット	♂♀各 5	経皮	0, 1000	>1000	(1994)	114
	反復吸入毒性 90 日間			成績提出の除外				117
47 (GLP)	反復経口投与神経毒性 3 ヶ月	ラット	♂♀各 10	飼料混入	0, 1000, 4000, 16000 (ppm) ♂: 72, 292, 1180 ♀: 84, 341, 1354	一般毒性: ♂: 292 (4000 ppm) ♀: 341 (4000 ppm) 神経毒性: 16000ppm でもなし	(1996)	118
	反復投与遅発性神経毒性 28 日間			成績提出の除外				123
27 (GLP)	慢性毒性 12 ヶ月	豚	♂♀各 5	飼料混入	0, 1000, 5000, 25000 (ppm) ♂: 27, 138, 714 ♀: 30, 146, 761	♂: 138 (5000 ppm) ♀: 761 (25000 ppm)	(1994)	124
25-1 (GLP)	慢性毒性 24 ヶ月	ラット	♂♀各 20	飼料混入	0, 200, 800, 8000, 16000 (ppm) ♂: 9, 36, 370, 746 ♀: 12, 48, 503, 985	♂: 36 (800 ppm) ♀: 48 (800 ppm)	(1994)	129
25-2 (GLP)	発がん性 24 ヶ月	ラット	♂♀各 50	飼料混入	0, 200, 800, 8000, 16000 (ppm) ♂: 9, 36, 375, 770 ♀: 12, 47, 497, 1046	♂: 36 (800ppm) ♀: 47 (800ppm) 8000 ppm 以上で肝臓がんの発生頻度増加	(1994)	147
25-2 補足資料 1	慢性毒性試験(資料 25-1)及び発がん性試験(資料 25-2)における肝腫瘍性病変に関する再評価					8000 ppm 以上で肝臓がんの発生頻度増加	(1995)	169
48 (GLP)	発がん性 24 ヶ月 (系統間の比較)	ラット	♂♀各 50	飼料混入	0, 16000 (ppm) ♂: 752 ♀: 1022	肝臓がんの発生頻度増加	(2008)	173
26 (GLP)	発がん性 18 ヶ月 (衛星群 12 ヶ月)	マウス	♂♀各 50 (衛星群: ♂♀各 10)	飼料混入	0, 400, 2000, 8000 (ppm) ♂: 60, 304, 1305 ♀: 81, 400, 1662	♂: 304 (2000 ppm) ♀: 81 (400 ppm) 発がん性なし	(1994)	179
28 (GLP)	繁殖毒性 F ₀ 世代 32 週間 F ₁ 世代 26 週間	ラット	♂♀各 25	飼料混入	0, 50, 1000, 4000, 16000 (ppm) F ₀ 世代 ♂ 5, 103, 411, 1623 ♀ 6, 109, 437, 1741 F ₁ 世代 ♂ 4, 88, 363, 1482 ♀ 5, 101, 417, 1653	一般毒性(親・児動物): 1000 (ppm) 16000 ppm で繁殖毒性なし ♂ F ₀ : 103 F ₁ : 88 ♀ F ₀ : 109 F ₁ : 101	(1994)	192
29 (GLP)	催奇形性 (器官形成期の 10 日間)	ラット	♀25	経口	0, 100, 400, 1000	母体/胎児: 1000 催奇形性: なし	(1994)	202
30 (GLP)	催奇形性 (器官形成期の 13 日間)	ウサギ	♀15	経口	0, 100, 400, 1000	母体/胎児: 1000 催奇形性: なし	(1993)	207

網掛け資料番号は残留農薬安全性評価委員会では評価されていない資料

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

資料 No.	試験の種類及び期間	供試生物	1群当り供試数	投与方法	投与量 (mg/kg)	LD ₅₀ 値または最大無作用量 (mg/kg)	試験機関 (報告年)	記載頁
31 (GLP)	変異原性 1) 遺伝子突然変異 (復帰変異試験) (HPRT 試験)	ネズミチフス菌 TA98, TA100, TA1537, TA1535; 大腸菌 WP uvrA (Ames 試験)			+/-S9 : 0.20, 100, 500, 2500 5000 (µg/プレート)	陰性	(1993)	212
38 (GLP)		チャイニーズハムスター卵巣細胞 (CHO)			1回目 +/-S9 : 0.0.0001, 0.0005, 0.001, 0.005, 0.01, 0.05, 0.1mg/mL 2回目 +/-S9 : 0.0.001, 0.00215, 0.00464, 0.01, 0.0215, 0.0464, 0.1mg/mL	陰性	(1994)	214
32 (GLP)	2) 染色体異常	ヒトリンパ球細胞 (染色体異常)			+/-S9 : 0.10, 20, 40 (µg/mL)	陰性	(1993)	217
追加1 (GLP)		チャイニーズハムスター肺細胞 (CHL) (染色体異常)			直接法 24 時間処理: 2.04, 6.11, 18.3.55 直接法 48 時間処理: 0.45, 0.9, 1.8 代謝活性化法: -9: 50, 100, 150, 200 (µg/mL) ----- +9: 50, 100, 150, 200 (µg/mL)	陰性	(1997)	219
33 (GLP)	3) 小核試験	マウス骨髄細胞 (小核試験)		腹腔投与	0.500, 1000, 2000	陰性	(1993)	222
追加2 (GLP)		ラット骨髄細胞 (小核試験)		腹腔投与	0.500, 1000, 2000	陰性	(1997)	224
34 (GLP)	4) DNA 損傷誘発性	枯草菌 DNA 修復 (Rec-assay)			非活性化法: 0.191, 381, 763, 1525, 3050, 6100 活性化法: 0.95, 3.191, 381, 763, 1525, 3050 (µg/disk)	陰性	(1994)	226
35 (GLP)	5) 不定期 DNA 合成	ラット初代培養肝細胞 (in vitro 不定期 DNA 合成試験)			0.0.33, 1.0, 3.33, 10, 33.3, 100 µg/mL	陰性	(1994)	228
36 (GLP)		ラット不定期 DNA 合成及び S 期反応試験		経口 (単回)	0.20, 200, 1000	陰性	(1994)	231
37 (GLP)		ラット不定期 DNA 合成 (3 週間投与)		飼料混入	0.200, 16000ppm	陰性	(1994)	234
49 (GLP)	6) 細胞形質転換	シリアン・ゴーストン・ハムスター胚細胞 (SHE 細胞)			7日間暴露: 0.01, 0.025, 0.05, 0.10, 0.20, 0.30, 0.40 µg/mL 24時間暴露: 0.25, 0.50, 1.0, 1.5, 2.0, 2.5, 5.0 µg/mL	陽性	(2008)	236

網掛け資料番号は残留農業安全性評価委員会では評価されていない資料

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

資料 No.	試験の種類及び期間	供試生物	1群当り供試数	投与方法	投与量 (mg/kg)	LD ₅₀ 値または最大無作用量 (mg/kg)	試験機関 (報告年)	記載頁	
39	生体機能に及ぼす影響								
	中枢神経系	一般症状 Irwin 変法	マウス	♂3	経口	0, 1000, 2000, 5000	5000: 一般症状の異常を認めず	(1994)	
		自発運動量	マウス	♂4	経口	0, 1000, 2000, 5000	5000: 自発運動量の異常を認めず		
		自発脳波	ラット	♂4	経口	0, 1000, 2000, 5000	5000: 自発脳波の変化を認めず	(1994)	
	呼吸循環器系	ケタミン麻酔 ラット	♂4	十二指腸内	0, 5000	5000: 呼吸、循環器系の変化を認めず	(1994)		
	自律神経系	モルモット 摘出気管	4例 (気管/ 濃度)	In vitro	0, 10 ⁻⁷ , 10 ⁻⁶ , 10 ⁻⁵ , 10 ⁻⁴ g/mL	10 ⁻⁴ : 単独作用認めず 10 ⁻⁶ (アセチルコリン): >10 ⁻⁷ (ヒスタミン): アコニトキシンを可逆的で非競合拮抗的に抑制			
	消化器	炭末輸送能	マウス	♂6	経口	0, 1000, 2000, 5000			5000: 炭末輸送能の変化を認めず
		摘出回腸	モルモット 摘出回腸	2例 (回腸/ 濃度)	In vitro	0, 10 ⁻⁷ , 10 ⁻⁶ , 10 ⁻⁵ g/mL			10 ⁻⁴ : 単独作用認めず 10 ⁻⁷ (アセチルコリン, ヒスタミン): アコニトキシンを可逆的で非競合拮抗的に抑制
	骨格筋収縮	ラット腓腹筋	♂4	十二指腸内	0, 5000	腓腹筋収縮の変化を認めず			
血液 (溶血作用)	ラット赤血球	♂2	In vitro	0, 1, 10, 100 µg/mL	溶血作用を認めず				
腎臓・肝臓機能	ラット	♂6	経口	0, 1000, 2000, 5000	5000: それぞれの臓器について機能的及び形態学的異常を認めず	(1994)			
作用機序に関する試験									
50	血清酵素活性に対する作用	ラット	♂♀各5 ♀5又は10	経口	0, 8000	酵素活性の低下は有害作用ではない	(1994)	249	
補足 6 (GLP)	肝酵素活性 3週間	ラット(88日齢)	♂♀各10	飼料混入	♂♀ 200, 16000 (ppm) ♂ 13, 973 ♀ 15, 1186	♂973, ♀1186 (16000ppm): 一部の酵素に活性あり ♂13, ♀15 (200ppm): 活性なし	(1996)	255	
追加補足 3 (GLP)	尿中血清酵素排泄試験 2週間	ラット(11週齢)	♂♀各10	飼料混入	♂♀ 0, 16000 (ppm) ♂ 913 ♀ 1138	16000: 血清 ALT, ALP は低下。各酵素の尿中排泄量及び尿中濃度、尿量及び尿中へのクレアチン排泄量に对照群と差なし。腎機能に影響なし。	(1997)	257	
補足 2 (GLP)	イニシエーション活性試験	ラット(56日齢)	♂♀各10	経口 (単回)	♂♀ 0, 2000 (原体、純品)	陰性	(1995)	259	
追加補足 1	アロモーション活性試験 6週間	ラット(8週齢)	♂各16	飼料混入	♂ 0, 200, 800, 8000, 16000 (ppm) ♂ 11, 42, 431, 886	≥431 (8000ppm): アロモーション活性あり ≤42 (800ppm): アロモーション活性なし	(1997)	263	

網掛け資料番号は残留農薬安全性評価委員会では評価されていない資料

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

資料 No.	試験の種類及び期間	供試生物	1群当り供試数	投与方法	投与量 (mg/kg)	LD50 値または最大無作用量 (mg/kg)	試験機関 (報告年)	記載頁
補足 3 (GLP)	S-期反応試験 3週間	ラット(64日齢)	♂各5	飼料混入	♂ 0, 200, 16000 (ppm) ♂ 15, 1140	♂1140 (16000 ppm): 増殖活性あり ♂15 (200 ppm): 増殖活性なし	(1994)	267
補足 4 (GLP)	S-期反応試験 3週間	ラット(16ヵ月齢)	♂各5	飼料混入	♂0, 200, 16000 (ppm) ♂ 9, 700 (検体摂取量は推測値)	♂700 (16000 ppm): 増殖活性あり ♂9 (200 ppm): 増殖活性なし	(1994)	270
補足 5 (GLP)	回復期を含む S-期反応試験 1, 6, 13 週間	ラット(42日齢)	♂各5	飼料混入	♂0, 16000 (ppm) ♂ 1 週間投与: 1660 ♂ 6 週間投与: 1362 ♂ 13 週間投与: 1150	♂ 1660~1150 16000 ppm で増殖活性あるが投与中止により回復	(1996)	273
追加補足 2 (GLP)	S-期反応試験 3週間	ラット(64日齢)	♂各5	飼料混入	♂0, 800, 8000 (ppm) ♂ 61, 603	♂603 (8000 ppm): 増殖活性あり ♂61 (800 ppm): 増殖活性なし	(1997)	277

2. 原体中の混在物および代謝物を用いた試験成績

資料 No.	試験の種類及び期間	供試生物	1群当り供試数	投与方法	投与量 (mg/kg)	LD50 値または最大無作用量 (mg/kg)	観察期間 (報告年)	記載頁
追加 3 (GLP)	混在物 1 急性毒性 14日間観察	ラット	♂♀各5	経口	♂♀ 5000	♂♀ >5000	(1996)	280
追加 4 (GLP)	混在物 1 復帰変異性	ネズミ糞菌 TA98, TA100, TA1537, TA1535; 大腸菌 WP2 uvrA (Ames 試験)			+/-S9: 156, 313, 625, 1250, 2500, 5000。 TA1537(-S9mix)は 9.77, 19.6, 39.1, 78.1 を追加 (µg/プレート)	陰性	(1997)	281
40 (GLP)	代謝物 M1 急性毒性 14日間観察	ラット	♂♀各5	経口	♂♀ 200, 2000, 5000	♂ 約 2000 ♀ 約 1090 ♂♀ 約 2000	(1995)	284
41 (GLP)	代謝物 M2 急性毒性 14日間観察	ラット	♂♀各5	経口	♂♀ 5000	♂♀ >5000	(1994)	285
42 (GLP)	代謝物 M9 急性毒性 14日間観察	ラット	♂♀各5	経口	♂♀ 2000, 3000, 5000	♂♀ >5000	(1994)	286
43 (GLP)	代謝物 M1 復帰変異性	ネズミ糞菌: TA98, TA100, TA1535, TA1537 大腸菌: WP2 uvrA			標準プレート法: 0, 20, 100, 500, 2500, 5000µg/プレート プレートインキュベーション法: 0, 4, 20, 100, 500, 2500 µg/プレート	陰性	(1995)	287
51 (GLP)	代謝物 M1 細胞形質転換	Syrian golden ハムスター胚由来 SHE 細胞			20, 40, 60, 80, 100, 120 µg/mL	陰性	(2005)	289
44 (GLP)	代謝物 M2 復帰変異性	ネズミ糞菌: TA98, TA100, TA1535, TA1537 大腸菌: WP2 uvrA			標準プレート法: 0, 20, 100, 500, 2500, 5000µg/プレート プレートインキュベーション法: 0, 4, 20, 100, 500, 2500 (サモネラ菌)	陰性	(1995)	292
45 (GLP)	代謝物 M9 復帰変異性	ネズミ糞菌: TA98, TA100, TA1535, TA1537 大腸菌: WP2 uvrA			(大腸菌は標準プレート法と同じ濃度)	陰性	(1995)	294

網掛け資料番号は残留農薬安全性評価委員会では評価されていない資料

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

3. 製剤を用いた試験成績

資料 No.	試験の種類及び期間	供試生物	1群当り供試数	投与方法	投与量 (mg/kg)	LD50 値または最大無作用量 (mg/kg)	試験機関 (報告年)	記載頁
47.0% ドライフロアブル								
5 (GLP)	ドライフロアブル 急性毒性 14日間観察	ラット	♂♀各5	経口	♂♀ 5000	♂♀ >5000	(1994)	296
6 (GLP)	ドライフロアブル 急性毒性 14日間観察	マウス	♂♀各5	経口	♂♀ 5000	♂♀ >5000	(1994)	297
7 (GLP)	ドライフロアブル 急性毒性 14日間観察	ラット	♂♀各5	経皮	♂♀ 2000	♂♀ >2000	(1994)	298
8 (GLP)	ドライフロアブル 急性毒性 14日間観察	ラット	♂♀各5	吸入 (ダスト)	♂♀ 5.7mg/L	♂♀ >5.7mg/L	(1994)	299
17 (GLP)	ドライフロアブル 皮膚刺激性 72時間観察	ウサギ	♀6	皮膚貼付	♀ 0.5g	殆ど刺激性なし (48時間後には消失)	(1994)	301
14 (GLP)	ドライフロアブル 眼粘膜刺激性 72時間観察	ウサギ	♂♀各3	結膜囊	♂♀ 0.1mL/眼 (約 37mg/眼)	殆ど刺激性なし (48時間後消失)	(1994)	303
20 (GLP)	ドライフロアブル 皮膚感作性 Buehler 法 48時間観察	モルモット	♀20	感作: 60%懸濁液適用 誘発: 60%懸濁液適用		陰性	(1994)	306
41.5% フロアブル								
9 (GLP)	フロアブル 急性毒性 14日間観察	ラット	♂♀各5	経口	♂♀ 5000	♂♀ >5000	(1993)	308
10 (GLP)	フロアブル 急性毒性 14日間観察	マウス	♂♀各5	経口	♂♀ 5000	♂♀ >5000	(1994)	309
11 (GLP)	フロアブル 急性毒性 14日間観察	ラット	♂♀各5	経皮	♂♀ 4000	♂♀ >4000	(1993)	310
12 (GLP)	フロアブル 急性毒性 14日間観察	ラット	♂♀各5	吸入 (エアロゾル)	♂♀ 3.14mg/L	♂♀ >3.14mg/L	(1993)	311
18 (GLP)	フロアブル 皮膚刺激性 72時間観察	ウサギ	♂♀各3	皮膚貼付	♂♀ 0.5mL	殆ど刺激性なし (72時間後消失)	(1993)	313
15 (GLP)	フロアブル 眼粘膜刺激性 72時間観察	ウサギ	♂4 ♀2	結膜囊	♂♀ 0.1mL/眼	殆ど刺激性なし (72時間後消失)	(1993)	315
21 (GLP)	フロアブル 皮膚感作性 Buehler 法 48時間観察	モルモット	♀20	感作: 検体をそのまま適用 誘発: 検体をそのまま適用		陰性	(1993)	318

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

毒性に関する試験成績

本抄録において、臨床検査項目については以下の略号を使用した。

血液学的検査

APTT	: 活性化部分トロンボプラスチン時間
Hb	: ヘモグロビン
Hct	: ヘマトクリット
MCH	: 平均赤血球血色素量
MCHC	: 平均赤血球血色素濃度
MCV	: 平均赤血球容積
PLT	: 血小板数
Pro-T	: プロトロンビン時間
PT	: トロンボプラスチン時間
PTT	: 部分トロンボプラスチン時間
RBC	: 赤血球
Retics	: 網状赤血球数
WBC	: 白血球数

血液生化学的検査

A/G	: アルブミン/グロブリン比
AIP	: アルカリホスファターゼ
BUN	: 尿素窒素
Glu	: グルコース
Ca	: カルシウム
Cl	: 塩素
CPK	: クレアチニンホスホキナーゼ
CREAK	: クレアチンキナーゼ
GGT	: γ -グルタミルトランスフェラーゼ
GOT または ALT	: アラニンアミノトランスフェラーゼ
GPT または AST	: アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ
K	: カリウム
LDH	: 乳酸脱水素酵素
Mg	: マグネシウム
Na	: ナトリウム
OCT	: オルニチンカルバミルトランスフェラーゼ
Phos	: 無機リン
T. Bil	: 総ビリルビン
T. Chol	: 総コレステロール

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

1. 原体の毒性

1-1 急性毒性

1) ラットにおける急性経口毒性試験

(資料 1)

試験機関:

[GLP 対応]

報告書作成年: 1993 年

検体の純度:

供試動物: ウィスター系 CHBB:THOM ラット、6~7 週齢、体重: 雄 175~182 g、雌 167~173 g、
1 群雌雄各 5 匹

観察期間: 14 日間観察

投与方法: 検体を 0.5%カルボキシメチルセルロース ナトリウム水溶液に懸濁し、単回強制
経口投与した。投与前に 16 時間絶食させた。

観察・検査項目: 中毒症状および生死を 14 日間観察した。体重は試験開始時、投与 7 および 13
日後に測定した。試験終了時の全生存動物について、肉眼的病理検査を行った。

結果:

投与方法	経口
投与量 (mg/kg)	5000
LD ₅₀ (mg/kg)	雄雌: >5000
死亡開始時間および終了時間	死亡例なし
症状発現および消失時期	症状の発現なし
最大無作用量 (mg/kg)	雌雄共: 5000
死亡例の認められなかった 最高投与量 (mg/kg)	雌雄共: 5000

中毒症状は認められず、体重にも異常は認められなかった。

剖検所見では、主要な組織器官に特記すべき変化は認められなかった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

2) マウスにおける急性経口毒性試験

(資料 2)

試験機関:

[GLP 対応]

報告書作成年: 1994 年

検体の純度:

供試動物: ICR系マウス、6週齢、体重: 雄 30.4~33.4 g、雌 24.9~27.0 g、1群雌雄各 5 匹

観察期間: 14日間観察

投与方法: 検体を 0.5%カルボキシメチルセルロース ナトリウム水溶液に懸濁し、単回強制経口投与した。投与前に約 3 時間絶食させた。

観察・検査項目: 中毒症状および生死を 14 日間観察した。体重は試験開始時、投与 7 および 14 日後に測定した。試験終了時の全生存動物について、肉眼的病理検査を行った。

結 果:

投与方法	経口
投与量 (mg/kg)	5000
LD ₅₀ (mg/kg)	雄雌: >5000
死亡開始時間および終了時間	死亡例なし
症状発現および消失時期	症状の発現なし
最大無作用量 (mg/kg)	雌雄共: 5000
死亡例の認められなかった最高投与量 (mg/kg)	雌雄共: 5000

中毒症状は認められず、体重にも異常は認められなかった。

剖検所見では、主要な組織器官に特記すべき変化は認められなかった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

3) ラットにおける急性経皮毒性試験

(資料 3)

試験機関:

[GLP 対応]

報告書作成年: 1993 年

検体の純度:

供試動物: ウィスター系 CHBB:THOM ラット、7~8 週齢、体重: 雄 265~274 g、雌 236~251 g、
1 群雌雄各 5 匹

観察期間: 14 日間観察

投与方法: 検体を 0.5%カルボキシメチルセルロース ナトリウム水溶液に懸濁し、刈毛した
体幹の背部/背側部皮膚に適用し、24 時間半閉塞被覆した。被覆除去後、適用部
位を温水で洗浄した。

観察・検査項目: 中毒症状および生死を 14 日間観察した。体重は試験開始時、投与 7 および 13
日後に測定した。試験終了時の全生存動物について、適用部位を含む組織の肉眼的
病理検査を行った。

結果:

投与方法	経皮
投与量 (mg/kg)	2000
LD ₅₀ (mg/kg)	雄雌: >2000
死亡開始時間および終了時間	死亡例なし
症状発現および消失時期	適用 1 日後
死亡例の認められなかった 最高投与量 (mg/kg)	雌雄共: 2000

中毒症状は雌雄とも認められなかった。

投与部位の皮膚に刺激性の変化(雄 3 例および雌 2 例に軽微な紅斑、雌雄各 1 例
に軽度紅斑、雄 1 例に軽微な浮腫)が観察された。

体重増加に異常は認められなかった。

剖検所見では、主要な組織器官に特記すべき変化は認められなかった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

4) ラットにおける急性吸入毒性試験

(資料 4)

試験機関:

[GLP 対応]

報告書作成年: 1992 年

検体の純度:

供試動物: ウィスター系 Chbb:YHOM ラット、8~9 週齢、平均体重: 雄 278g、雌 197g、
1 群雌雄各 5 匹

観察期間: 14 日間観察

暴露方法: 検体に Aerosil を 1% (w/w) 混合し、粉塵発生装置を用いてダストを高速気流 (空気流量 1500 L/時間) により発生させ、排出空気量が供給空気量より 10% 少なくなるように陽圧とし、4 時間鼻部暴露させた。

粒度分布はカスケードインパクターの各フィルターで捕捉し、その平均重量パーセントで示した。

粉塵濃度 (mg/L) は、暴露空気採取前後のフィルター重量の差と採取空気量から算出した。なお、添加物 (1%) の量による補整を行った。

暴露条件:

		試験群 1	試験群 2
設定濃度 (mg/L)		40.1	121.3
実際濃度 (mg/L) ¹		2.04	5.6
粒子径分布 (%) ²	<1.2µm	40.8	25.3
	1.2~ 2.8	18.5	25.8
	2.8~ 5.5	18.1	26.4
	5.5~ 8.5	10.7	12.9
	8.5~ 18.2	6.1	4.7
	18.2~ 29.5	3.1	1.9
	>29.5	2.6	3.1
空気力学的質量中位径 (µm)		1.8	2.4
吸入可能な粒子 (<5.5µm) の割合 (%)		88	90
チャンパー容量 (L)		約 55	
チャンパー内通気量 (L/分)		25	
暴露条件		ダスト、4 時間、鼻部	

¹ 4 回測定 of 平均値 ² 試験開始 30 分後に採取

観察・検査項目: 暴露中および暴露後 14 日間、中毒症状および生死を毎日観察した。体重は試験開始前、試験開始 7 および 14 日後に測定した。観察期間終了時の全生存動物につき、肉眼的病理検査を行った。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

結 果:

投与方法	吸入(ダスト)
暴露濃度 (mg/L)	2.04、5.6
LC ₅₀ (mg/L)	>5.6
死亡開始時間および終了時間	死亡例なし
症状発現および消失時期	暴露期間中発現。暴露1日後消失。
死亡例の認められなかった 最高投与量 (mg/L)	5.6

中毒症状として、低および高濃度暴露群の雌雄全例(各5例)に、逃避行動、促迫・間欠呼吸、被毛の汚れ・尿汚染が認められ、高濃度暴露群の雌雄全例に赤色眼漏、多数例に呼吸音(3~4例)、鼻の赤色痂皮形成(4~2例)、少数例(1~2例)で跳びはね歩行および蹲り姿勢、一般状態の低下が認められた。又同群の雄のみに呼吸不整、眼瞼に赤色痂皮、立毛が(各1例)認められた。

低濃度暴露群の雄ではさらに、赤色鼻漏および眼漏、眼瞼の赤色痂皮が各1例認められた。

これらの症状は暴露1日以降に消失した。

いずれの暴露濃度においても、体重増加への影響は全観察期間を通して認められなかった。

肉眼的病理検査では、特記すべき変化は認められなかった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

5) ラットを用いた急性神経毒性試験

(資料 52)

試験機関：

報告書作成年：1996年 [GLP 対応]

検体の純度：

供試動物： CD系ラット、1群雌雄各10匹、検体投与時42日齢、
投与時体重範囲 雄175~212g 雌130~160g

試験期間： 投与後14日間観察（1993年1月11日~1993年1月29日）

投与方法： 0.5%CMC水溶液に懸濁した検体の溶液を500、1000及び2000 mg/kgの用量で動物に1回経口投与した。動物は投与前に約16時間絶食させた。

用量設定理由： 検体の同系ラットにおける致死量は5000 mg/kg以上であることから、ガイドラインで規定されている限界用量である2000 mg/kgを本試験における最高投与量とし、以下1000及び500 mg/kgを設定した。

観察・検査項目及び結果：

死亡率： 生死を毎日観察した。

いずれの投与群においても、死亡は認められなかった。

一般症状： 一般症状を毎日2回観察し、触診を含む詳細な観察を週1回実施した。

検体の投与に関連のある症状はいずれの投与群にも認められなかった。

体重変化： 投与開始前、投与開始から毎週1回及び剖検時に体重測定を行った。

対照群と比べて、いずれの投与群とも差は認められなかった。

詳細な状態の観察及び機能検査： 投与開始前、投与日、投与後1週及び2週に以下の詳細な検査を行った。

ホームケージにおける観察

姿勢、痙攣、振戦、行動、脱糞、排尿、その他のすべての異常所見

オープンフィールド

被毛、皮膚の色調、姿勢、流涎、呼吸、活動性、覚醒度、発声、振戦、痙

攣、異常行動、歩行異常、流涙、眼球突出、2分間の立ち上がり回数、その

他の所見（雑多）

感覚運動検査

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

感覚過敏、腹部緊張、眼瞼閉塞、眼瞼反射、瞳孔反射、瞳孔径、耳介反射、聴覚（驚愕反応）、嗅覚、疼痛反応（テイルピンチ）、運動協調性（立ち直り反応）、視覚（視覚性置き直し反応）

定量的検査

前肢握力、後肢握力、着地開脚幅

自発運動量

運動量は 5 分間 × 12 回測定した。

ホームケージ及びオープンフィールドでの観察並びに感覚運動検査/反射テストとも、いずれの投与群にも検体投与に関連のある変化は認められなかった。

定量的観察（握力、着地開脚幅）では、試験 14 日に 2000 及び 1000mg/kg 群の雌で前肢握力（対照群の 3.4 に対して、それぞれ 2.9 及び 3.0 Newton）の統計学的に有意な低下 ($p < 0.05$ 又は 0.02) が認められた。しかし、生物学的に意義のある影響とは考えられなかった。又、これらの値は背景データの範囲内（前肢握力：1.9~4.8 Newton）にあった。その他に、統計学的に有意な変化は認められなかった。

自発運動量の測定では、下表に示すように、試験-6 日における 2000mg/kg 群及び 1000mg/kg 群の雄、試験 14 日における 2000mg/kg 群の雄の総自発運動量測定値に統計学的に有意な増加が認められた。しかし、用量相関性が認められず、検体投与前でも有意に増加していたことから、偶発的变化であると考えられた。雌ではいずれの群ともに変化は認められなかった。

自発運動量

検査日	雄			
	0	500	1000	2000
試験-6日	76	95	167 ^{††}	127 [↑]
試験0日	82	90	128	124
試験7日	86	97	144	117
試験14日	83	93	137	153 [↑]

↑: $p \leq 0.05$ 、[†]: $p \leq 0.02$ 、^{††}: $p \leq 0.002$ (Mann-Whitney の U 検定)

病理組織学的検査：各群雌雄各 5 例について、試験終了時に灌流固定により屠殺した後、剖検し、肉眼的病理検査を行った。脳、脊髄及び末梢神経系を摘出し、4%中性緩衝ホルマリン液に固定した。

対照群及び高用量群の以下の器官について、エポキシ樹脂包埋/トルイジンブルー⁽⁴⁾又はヘマトキシリン-エオジン染色を行い、鏡検した：

大脳、ガッセル神経節（三叉神経）、脊髄（頸部 [C3~C6] 及び腰部 [L1~L4] 膨大部）、背根神経節（L1~L4）、背根神経線維（L1~L4）、腹根

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

神経線維 (L1~L4)、近位挫骨神経 (坐骨切痕) †、脛骨神経 (膝) †、腓腹神経 (膝) †、腓腹筋

認められた唯一の変化は、2000mg/kg 群の雌 1 例に認められた近位坐骨神経の軽微な軸索変性のみであった。この所見は同群の他の動物には認められず、この動物には他の神経線維異常も認められなかったことから、この所見は特異的神経毒性作用を示唆するものではないと考えられることから、検体の投与に起因する変化ではないと判断した。

以上の結果から、検体のラットにおける急性神経毒性試験において、機能観察総合検査及び自発運動量測定で、投与に関連のある変化は認められず、2000mg/kg 群雌 1 例に認められた近位坐骨神経の軸索変性は偶発的で投与に関連がないと判断されることから、最高用量の 2000mg/kg でも、神経毒性は認められなかった。又、本試験条件下における無毒性量 (NOEL) は 2000mg/kg であった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は BASF ジャパン株式会社にある。

6) 急性遅発性神経毒性試験

試験成績提出の除外

急性毒性および反復投与毒性試験、並びに遅発性神経毒性を有する既知化合物との化学構造上の相関等からみて、遅発性神経毒性を有する恐れがないと認められるため試験を省略した。